

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	1
(2)区分番号	1
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健学概論 (Introduction to Health Sciences)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○北宮千秋, 樋口 毅, 藤田あけみ, 工藤ひろみ, 對馬恵, 千葉 満, 石川 玲, 小山内隆生
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○保健学, 医学等の健康関連科学ならびにこれらの学問の接近領域についての学識を得ること (見通す力) ○医師, 看護師, 診療放射線技師, 臨床検査技師, 理学療法士, 作業療法士の役割を理解すること (見通す力)
(15)授業の概要	○健康, 保健という基本的概念を理解し, 「人」をみつめた将来の医療専門職となる基本的態度を培う ○保健学科の5専攻の各専門分野における教育の理念や専門職としての役割, 責任, 他職種との連携等について学ぶことにより, その共通性と独自性について理解する
(16)授業の内容 予定	4月15日 第1回 オリエンテーション, 健康・保健の概念 (北宮) 4月22日 第2回 医療現場で必要とされるメディカルスタッフ像を考えよう (樋口) 5月11日 第3回 看護学の概念, 看護者の役割・機能など (藤田あ、工藤ひ) 5月13日 第4回 医療機関における放射線診療の概要と放射線について (對馬恵) 5月20日 第5回 作業療法の概要と作業療法士の役割, および他職種との連携 (小山内) 5月27日 第6回 検査技術科学専攻のカリキュラムの特色および 臨床検査技師の役割, 業務内容とチーム医療について (千葉) 6月 3日 第7回 リハビリテーションと理学療法 (石川) 6月10日 第8回 学びの統合とまとめ (北宮)
(17)準備学習 (予習・復習) 等 の内容	予習 それぞれの授業内容を確認の上, 書籍およびインターネットなどから, 基礎知識を得るようにすること 復習 所属する専攻以外の仕事内容について十分理解できているかを, 友人とデ

	<p>ディスカッションするよう心がけ、専攻外の学生と積極的に交流しながら、将来の医療チームの一員としての基礎作りとするよう、自己研鑽すること</p>
<p>(18)学問分野 1(主学問分野)</p>	健康科学関連
<p>(18)学問分野 2(副学問分野)</p>	-
<p>(18)学問分野 3(副学問分野)</p>	-
<p>(19)実務経験のある教員による授業科目について</p>	実務教員
<p>(20)教材・教科書</p>	各回、プリント等の資料を配付する 教科書は特に使用しない
<p>(21)参考文献</p>	適宜授業で紹介する
<p>(22)成績評価方法及び採点基準</p>	各回、小テストまたはレポートを実施し、これを統合して最終評価を行う 各教員は100点満点で評価し、その平均点が60点以上を合格とする 5回以上の出席がなければ評価の対象とならないので、留意して下さい
<p>(23)授業形式</p>	講義
<p>(24)授業形態・授業方法</p>	主として講義形式
<p>(25)留意点・予備知識</p>	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
<p>(26)オフィスアワー</p>	月曜日12時～13時
<p>(27)Eメールアドレス・HPアドレス</p>	北宮 千秋 : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
<p>(28)その他</p>	各教員が医師、保健師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	2
(2)区分番号	2
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英 文名〕	コミュニケーション論 (Communication Method)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	○木立るり子, 會津桂子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○良い人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解する(見通す力) ○医療現場におけるコミュニケーションの特徴と接遇について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	保健医療活動の基盤となる人間関係を成立し、発展させるために必要なコミュニケーションの基本的知識と技術を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回(木立 6/17): 授業オリエンテーション コミュニケーションの基本1(対人コミュニケーション成立の基本知識) 第2回(木立 6/24): コミュニケーションの基本2(ノンバーバル・コミュニケーション) 第3回(木立 7/1): コミュニケーションの基本3(コミュニケーション技法) 第4回(木立 7/8): 身体の交流という視点からみたコミュニケーション、まとめとレポート課題提示 第5回(會津 7/18): 医療現場におけるコミュニケーションの特徴1(対象者とのコミュニケーション) 第6回(會津 7/22): 医療現場におけるコミュニケーションの特徴2(医療者間コミュニケーション) 第7回(會津 7/29): 医療者に必要な接遇 第8回(會津 8/5): まとめとレポート課題の提示
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義の最後に課題を提示し、次回の講義に確認します。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教科書は使用されません
(21)参考文献	授業の時に適宜紹介されます
(22)成績評価方法及び採点基準	前半4回: 平常評価 (小課題) 20%、期末評価 (レポート) 30% 後半4回: 平常評価 (小課題) 20%、期末評価 (レポート) 30% 総合して3分の2以上の出席で評価の対象となります。 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	基本的には講義形式ですが、演習形式も含まれます
(26)オフィスアワー	メールで予約のうえに対応します
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	木立 : kidachi@hirosaki-u.ac.jp 會津 : aizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	3
(2)区分番号	3
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	人体形態学 (Human Body Anatomy)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	敦賀英知
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○細胞の構造と役割、組織の構造・分類と分布・役割、方向などの一般用語、人体の器官系と機能、全身の骨・交連骨格の形態・部分名称と役割、全身の関節構造と運動、全身の筋の名称と機能(主な神経支配)を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	人体形態学(解剖学)の基礎を理解し、専門科目の基礎を培います。
(16)授業の内容 予定	<p>この授業では細胞の構造と役割、組織の構造・分類と分布・役割、方向などの一般用語、人体の器官系と機能、全身の骨・交連骨格の形態・部分名称と役割、全身の関節構造と運動、全身の筋の名称と機能(主な神経支配)について理解を深めます。</p> <p>1回-----解剖学の内容、細胞の構造 2回-----組織の分類 3回-----皮膚の構造、骨組織 4回-----頭部と体幹の骨 5回-----四肢の骨 6回-----骨の連結と運動 7回-----骨学実習(体幹の骨と連結) 8回-----骨学実習(四肢の骨と連結) 9回-----骨学実習(頭蓋の骨と連結) 10回-----試験(骨学) 11回-----筋組織、体幹の筋 12回-----上肢の筋 13回-----下肢の筋 14回-----体表解剖学 15回-----体表解剖学 16回-----試験(筋学)</p>
	<p>当日の授業担当部分を教科書で予習します。 当日の授業を復習し、理解できない点をまとめ、次回に質問します。 骨学実習では、配布プリントの名称をチェックし、授業時間中に何を理解し、何を質問するかを予習します。復習では、当日の理解を深めます。</p>

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	-
(20)教材・教科書	井上貴央監訳：カラー人体解剖学（西村書店）
(21)参考文献	森 於菟ら：分担解剖学 1、 相磯貞和訳：ネッター解剖学図譜、千葉正司：線描人体解剖学
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は、出欠状況と受講態度(10%)、骨のスケッチ(30%)、試験(60%)により総合評価します。一定のレベル(60%)に達しなければ不合格、再履修となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	講義が主体で、骨のスケッチも行います。
(25)留意点・予備知識	B4大のケント紙・Hの鉛筆・色鉛筆などが必要です。 後期に、人体形態学演習として、神経・脈管・内臓・感覚器などの講義を行います。 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(26)オフィスアワー	(火～木) 11:30～12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tsuru@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	4
(2)区分番号	4
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	作業療法概論
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	小山内隆生
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○リハビリテーションにおける作業療法の意義と作業療法士の役割を把握することを修得する(見通す力) ○作業療法士になるために学ばなければいけないことの概略を把握し、学習意欲を高めることを修得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	この講義は、作業療法のイメージ、作業療法実践に必要な知識・技能と心構えについて概略の講義を通して、作業療法学専攻に入学した学生が、作業療法士の理解ならびに作業療法について理解を深め、作業療法士になるための心構えを作ることを目的としています
(16)授業の内容予定	この授業では、作業療法の歴史、障害の分類、作業療法の展開、分野、管理運営等についての概略を講義します <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、作業療法の定義 2. 作業療法の原理(原理、歴史) 3. 作業療法の領域(領域、理論、WFOT) 4. 作業療法の教育(教育体系、資質と倫理) 5. 多職種連携、EBM 6. 作業療法の過程1(評価・計画立案・治療) 7. 作業療法の過程2(思考過程、作業療法の対象) 8. 分野別作業療法(身体障害) 9. 分野別作業療法(精神障害) 10. 分野別作業療法(発達障害) 11. 分野別作業療法(高齢期障害分野) 12. 大学病院見学(水曜日13:00~17:00) 13. 大学病院見学(水曜日13:00~17:00) 14. 専門職としての作業療法・管理運営 15. 研究方法 16. 試験

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回の講義資料、教科書の関連ページを読んでおくこと。 復習：講義資料、教科書の関連ページを勉強すること。ミニテストを行うこと有り。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	「作業療法概論、医学書院」。教材としてプリントを配布します。
(21)参考文献	「作業療法概論、共同医書出版社」 医学部分館図書室で探してください
(22)成績評価方法及び採点基準	出席・遅刻状況，レポート提出状況，ミニテスト，期末テスト等による総合判定
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式が主体です。また施設見学が有ります。授業の最後にその日の講義・映像の内容についての理解力を確認するためのリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際にまとめて紹介・回答するという方法をとります
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません 施設見学ではセラピストスーツを着用します
(26)オフィスアワー	水曜日11:00～12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	osanai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	人間全般に興味をもって、性別、年齢、人種、障害の有無に関わらず、あらゆるタイプの人との積極的交流を通して、人間と生活、人生等についていろいろ学んで下さい。作業にも関心を持って、自分ができる作業の種類も増やすようにしてください。以上の観点から各種のボランティア活動に積極的に参加することを推奨します。数年後には作業療法士になることを自覚して、しっかり勉強に励んで下さい

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	5
(2)区分番号	5
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	基礎作業療法学実習
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7～9 時限
(10)担当教員 (所属)	○加藤拓彦, 澄川幸志
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○作業療法で用いられる作業(主として手芸)の体験および技術を修得するとともに、作業遂行要因に関する作業分析を行い、作業の治療的活用について修得する(見通す力) ○作業活動(activity)の治療的視点を理解する(見通す力) ○作業活動が作業療法に用いられる理由を理解する(解決する力)
(15)授業の概要	治療に用いるアクティビティーについての実習を行う。 併せて骨格筋に関するレポート課題を課す。
(16)授業の内容 予定	本実習では、次のアクティビティーを行う。 クラスを3グループに分け、籐細工、革細工、マクラメの3課題を実施する。 第1回：オリエンテーション (加藤, 澄川) 第2回～第5回：課題1 (加藤; 革細工, マクラメ, 澄川; 籐細工) 第6回～第9回：課題2 (加藤; 革細工, マクラメ, 澄川; 籐細工) 第10回～第13回：課題3 (加藤; 革細工, マクラメ, 澄川; 籐細工) 第14回：課題の仕上げ、発表準備 (加藤, 澄川) 第15回：発表 (加藤, 澄川) 骨格筋に関するレポート課題は、オリエンテーション時に説明する。
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	あらかじめ配布する資料は、本実習で実施する作業活動の作業工程および使用する道具と使い方の資料が含まれる。 予習では、実施する作業活動についてこれらを熟読すること。 復習では、身体障がい分野、精神障がい分野および発達障がい分野の各疾患への各種作業活動の適応について考察すること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野 3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	津山直一：新・徒手筋力検査法(第9版)、協同医書出版社、東京、2014。 このほか必要な資料は、1回目の授業の際に配布する
(21)参考文献	岩瀬義昭著：基礎作業学実習ガイド、協同医書出版社 小林夏子、福田恵美子・編集：基礎作業学（標準作業療法学 専門分野）、医学書院、東京、2010。 各種アクティビティーに関する書籍は実習室に準備している。 授業で実習室を使用していない時は、いつでも閲覧可能である。
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は実習への参加態度、課題提出、最終発表及び質疑応答、最終レポートにより到達目標の達成度の判定を行い、以下の基準で加減点する。 ・実習への参加態度（20%）：授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない。また、グループで行う実習であることから、協調性のある言動には加点し、協調性に欠ける言動、学習意欲に欠ける態度等については減点する。 ・課題提出（40%）：課題作品及び課題レポートは期限までに提出することを原則とし、期限後1日以内の提出は10点の減点、それ以降は未提出として扱い20点の減点とする。なお、課題作品を上手に作ることによる評価は行わない。 ・最終発表及び質疑応答（20%）：発表及び質疑応答については、それを行うことを原則とし、論理性や妥当性について評価し加減点を行う。 ・最終レポート（20%） 上記の合計点が6割以上の者に単位を付与する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	配付された資料に記載された作り方にしたがって作品を作る。 作業の進行を実際に体験しながら作業分析を行う。 グループごとに分析結果をまとめ発表す
(25)留意点・予備知識	あらかじめ配布された資料に記載された作り方を熟読しておくこと。 自分の行っている作業活動に没入しないこと。 同グループメンバーとのコミュニケーションを図りながら、他のグループメンバーが楽しみながら活動できるように演出をすること。
(26)オフィスアワー	水曜日：午前9時から正午まで 金曜日：午前9時から午後6時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	加藤：takuhiko@hirosaki-u.ac.jp 澄川：ot_sumi@hirosaki-u.ac.jp （@を半角に変換して使用してください）
(28)その他	連絡先；作業療法技術学研究室：39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	6
(2)区分番号	6
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神障害作業療法疾患学 (Psychiatry on Occupational Therapy)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	和田一丸
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○精神的・心理的・社会的な存在としての人間を理解する(見通す力) ○精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	臨床精神医学における各疾患について、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行い、精神疾患に関する理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回 統合失調症(概念・病因・疫学について) 第2回 統合失調症(症状・病型について) 第3回 統合失調症(診断と経過・予後について) 第4回 統合失調症(治療について) 第5回 気分障害—うつ病と双極性障害—(概念と症状について) 第6回 気分障害—うつ病と双極性障害—(治療と様々な病型について) 第7回 心因と関連した精神疾患 第8回 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 第9回 パーソナリティ障害 第10回 精神遅滞・心理的発達障害・少年期、青年期の精神障害 第11回 精神作用物質使用による精神および行動の障害 第12回 症状性および器質性精神障害 第13回 てんかん 第14回 精神医学と社会との関連(1) 第15回 精神医学と社会との関連(2) 15回の講義終了後、期末試験を実施する
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考に、教科書の該当箇所を授業前までに予習、授業後に復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員 による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	標準精神医学 第7版(医学書院)を使用
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採 点基準	平常評価(授業への参加度を含む): 30% 期末評価(期末試験): 70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が中心で適宜プリントを配布する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	随時(午後5~6時が望ましい)
(27)Eメールアドレス・ HPアドレス	kw@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	7
(2)区分番号	7
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	作業療法評価学概論
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	小山内隆生
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○作業療法における評価の役割を理解する(見通す力) ○身体障害領域, 精神障害領域, 発達障害領域の各領域の評価の共通点特異点について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	作業療法で使用する評価についての理論, 方法, 特質などについて学習し, 対象者を広い視野で共感的に理解する態度を養う
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション, 作業療法と評価, 再評価と作業療法の効果判定 2. 領域共通の評価法(面接法・観察法), 意識の評価とバイタルサイン 3. 形態計測・関節可動域計測・筋力検査, 感覚検査・反射検査・姿勢反射検査 4. 筋緊張検査・協調性検査・脳神経検査・上肢機能検査 5. 摂食嚥下機能検査・排せつ機能評価 6. 日常生活活動評価 7. QOL評価 8. 生活行為向上マネジメント
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 次回の講義資料, 教科書の関連ページを読んでおくこと 復習: 講義資料, 教科書の関連ページを勉強すること ミニテストを行うこと有り
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	「作業療法評価学(医学書院)」 教材としてプリントを配布します
(21)参考文献	日常生活活動の作業療法 中央法規

(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく単なる出席回数ではない。評価全体の40%） 期末評価（8回の授業終了後に、レポートを課す。評価全体の60%） 上記を合算して成績評価を行います
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です 授業の最後にその日の講義の内容についての内容のまとめについてのレポートを提出してもらう方式をとります
(25)留意点・予備知識	人間の機能についての知識が必要なので、人体機能学の運動器、神経、感覚についての理解を深めておくこと
(26)オフィスアワー	水曜日11:00～12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	osanai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	人体機能学，人体構造学についてしっかり勉強してください

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	8
(2)区分番号	8
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神障害作業療法評価学
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員（所属）	○小山内隆生，加藤拓彦
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○精神科リハビリテーションにおける評価の意義と方法を修得する（見通す力） ○得られた評価結果を解析し、リハビリテーションプログラムを作る方法を修得する（解決する力）
(15)授業の概要	この講義は、精神科作業療法のプログラム作成に必要な、精神障害者の評価についての知識と技術を習得することを目的として行います
(16)授業の内容予定	1. 精神機能作業療法評価学の基礎 (加藤) 2. 精神機能作業療法評価における情報収集 (加藤) 3. 観察法と面接法 (加藤) 4. 検査法 (小山内) 5. 集団の評価 (小山内) 6. 疾患別評価 (小山内) 7. 疾患別評価 (小山内) 8. まとめ (小山内)
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習：次回の講義資料，教科書の関連ページを読んでおくこと 復習：講義資料，教科書の関連ページを勉強すること
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	「作業療法評価学、医学書院」。教材としてプリントを配布します。
(21)参考文献	日常生活活動の作業療法 中央法規
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく単なる出席回数ではない（評価全体の40%）） 期末評価（8回の授業終了後に、レポートを課す（評価全体の60%）） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業の最後にその日の講義の内容についての内容のまとめについてのレポートを提出してもらう方式をとります
(25)留意点・予備知識	精神医学に関する知識を習得していること
(26)オフィスアワー	水曜日11:00～12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	osanai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	9
(2)区分番号	9
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	基礎作業療法学
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	加藤拓彦
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○作業分類を理解する(見通す力) ○作業分析を修得する(見通す力) ○作業の治療的応用について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	治療技術としての作業活動について学ぶ。 作業活動を行う人を理解(身体・精神・発達・社会および作業の包括的視点)する。 治療場面において作業活動によりどのような効果が得られるか理解する。 生活行為向上マネジメントについて理解する。
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション, 作業とは 2. 作業遂行 3. 作業遂行と身体機能 4. 作業遂行と精神機能 5. 作業遂行と発達 6. 作業遂行と人間関係・他 7. 作業の治療的応用-機能 8. 作業の治療的応用-活動 9. 作業の治療的応用-参加 10. 身体機能分析 11. 精神機能分析 12. 発達学的分析 13. 人間関係, 環境の分析 14. 生活行為向上マネジメント 15. 生活行為向上マネジメント 16. 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 次回の講義に該当する教科書及び配布された資料に目を通し理解すること。事前課題については, 他者に説明できるようにまとめること。 復習: 授業の内容を再度確認し理解すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第2巻 基礎作業学，協働遺書出版社
(21)参考文献	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 作業療法マニュアル57生活行為向上マネジメント
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は出席態度を2割，課題・小テストを2割，期末試験を6割として評価を行う。 ・授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない。 ・授業中の学習意欲に欠ける態度等については減点する。 ・期末試験の6割以上を得点し，かつ出欠状況及び出席態度，課題・小テスト，期末試験の合計点が6割以上の者に単位を付与する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	学習の内容を、憶えること、理解すること、思考方法に分けて認識し、学習をすすめること。単純に文章を暗記するような勉強では専門職の知識と技術の形成に役立たない。活用できる知識と技術に仕上げるよう心がけること。
(26)オフィスアワー	作業療法技術学研究室 水曜日：午前9時から正午まで 金曜日：午前9時から午後6時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(E-mailアドレス) 加藤：takuhi ko@hi rosaki -u. ac. jp (@を半角に変換して使用してください)
(28)その他	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	10
(2)区分番号	10
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神障害作業療法疾患学演習 (Seminar of Psychiatry on Occupational Therapy)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	和田一丸
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴について理解する(見通す力) ○精神障害者の臨床現場における諸問題を抽出し理解する(解決する力)
(15)授業の概要	第1～5回 統合失調症 について 第6, 7回 気分障害(うつ病、双極性障害)について 第8～10回 神経症性障害・摂食障害・パーソナリティ障害 第11～15回 脳器質性精神疾患・てんかん・認知症
(16)授業の内容予定	統合失調症、気分障害、神経症性障害、脳器質性精神疾患などの代表的な精神疾患について、具体的な臨床症例を呈示し、その症状と治療を中心に考察する。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業の中で配布された資料の復習を行い、次回の授業に疑問点を持ち越さないようにすること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	資料を適宜配布する。
(21)参考文献	特になし
	平常評価(授業への参加度:50%、講義ごとのレポート:50%)により成績評価を行う。

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	臨床例あるいは臨床論文を呈示し、精神疾患とそれに関連する諸問題を取りあげつつディスカッションを行う。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	随時（午後5～6時が望ましい）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kw@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	11
(2)区分番号	11
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	医療情報学 (Medical Information Sciences)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○柏倉幾郎, 松谷秀哉 (学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	医療情報についての基礎的知識を身につける。 情報通信技術の基礎的知識を理解する。 医療政策と財政の歴史的な推移と医療改革(標準化等)の関連を理解する。 医療安全のためのセキュリティ対策やリスクマネジメントセキュリティにおける情報の役割について理解する。 臨床疫学、臨床統計の基礎について理解する。 学術論文を理解し、簡単な文献検索ができる。
(15)授業の概要	日本においては、医療財政の破綻と抑制政策、医療の標準化と質的保証、これらが医療の歴史の必然的なひとつの流れとして形成されてきた。このような背景を踏まえて、医療の標準化や質的保証などにおいて、情報がどの様に用いられ、その役割を担っているのかを学ぶ。また、エビデンスに基づいた臨床疫学や医療統計学の基礎と臨床研究への応用、各種学術情報の活用法について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 4/15 情報機器のハードウェアとソフトウェア(構成と役割) {松谷} 第2回 4/22 情報通信の基礎 {松谷} 第3回 4/30 医療の歴史的背景(医療政策と財政、病院情報システム) {松谷} 第4回 5/9 医療の標準化(DPC制度:医療の質と医療費) {松谷} 第5回 5/13 医療の標準化(診療プロセス医療、診療記録)、セキュリティ {松谷} 第6回 5/20 EBM(1):臨床疫学の基礎(各種バイアス、システマティック・レビュー、メタ分析、コホート研究、無作為化比較試験、EBMの基礎等) {柏倉} 第7回 5/27 EBM(2):臨床統計の基礎(横断研究、観測値の特性や分布、感度・特異度、尤度比、検査前確率、帰無仮説、有意差検定等)、医療情報(学術論文、文献検索等) {柏倉} 第8回 6/3 予備日
	前回の内容について小テストを冒頭で実施

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書の指定なし
(21)参考文献	その都度、紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：40% 理解評価（期末試験の代わりに毎回の小テスト）：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	松谷：随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	松谷： shu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	12
(2)区分番号	12
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	発達期・老年期作業療法評価学実習 (Practice of Occupational Therapy Assessments for Children and Aged Persons)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7～9 時限
(10)担当教員 (所属)	○小枝周平, 佐藤ちひろ
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3～4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○発達期や老年期作業療法の実践に必要な各種評価法を理解する (見通す力) ○発達障害の子どもや高齢者の評価結果をまとめ, 症例の問題点を抽出する方法を修得する (解決する力) ○発達期や老年期作業療法での実際の仕事内容に触れ, 施設における作業療法士の役割を理解する (学び続ける力)
(15)授業の概要	発達期や老年期作業療法における身体的・精神的障害および日常生活活動に関する各種評価法を修得する 授業内容の理解促進のために臨床場面で作業療法士の指導のもと作業療法評価を実施する 実際に施設に勤務している作業療法士や他職種の方から情報収集を行う
(16)授業の内容予 定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (小枝, 佐藤) 2. 学内実習 (子どもの全般的発達評価など) (小枝, 佐藤) KIDS、津守・稲毛式乳幼児精神発達診断, グッドイナフ人物画知能検査, 新版K式発達検査法, Vineland II 適応行動発達尺度 など 3. 学内実習 (子どもの粗大運動の評価) (小枝, 佐藤) Milani-Comparettiの運動発達評価表 粗大運動能力尺度 (GMFM), 粗大運動能力分類システム (GMFCS), 脳性麻痺児の手指把持能力分類システム (MAGS), Erhardt発達学的把持能力評価 (EDPA)、随意運動発達検査 など 4. 学内実習 (子どもの上肢機能評価、知覚機能評価) (小枝、佐藤) 日本版感覚プロファイル (SP), Erhardt発達学的視覚評価 (EDVA), Test of Visual-Perceptual Skills (TVPS), フロスティック視知覚発達検査 (DTVP), ムーブメント教育・療法プログラムアセスメント (MEPA) など 5. 学内実習 (子どもの感覚統合機能評価) (小枝, 佐藤) 日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査 (JMAP) 6. 学内実習 (子どものADL評価) (小枝, 佐藤) こどものための機能的自立度評価法 (Wee FIM), リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法 (PEDI), S-M社会生活能力検査, Takataの遊びの質問表, 行動観察表, 子どもの摂食嚥下評価・治療法 など

	<p>7. 学内実習（高齢者のADL評価①）（小枝，佐藤） 高齢者の摂食嚥下評価・治療法，Zarit介護負担尺度，介護保険の概要，利用可能なりハビリテーションサービス，Barthel Index，Functional Independence Measure など</p> <p>8. 学内実習（高齢者のADL評価②）（小枝，佐藤） 老研式活動能力指標，障害高齢者の日常生活自立度，認知症高齢者の日常生活自立度判定，パラチェック老人行動評定尺度，PGCモラールスケール など</p> <p>9. 臨床場面での子どもと高齢者の評価実習（小枝，佐藤）</p> <p>10. 臨床場面での子どもと高齢者の評価実習（小枝，佐藤）</p> <p>11. 臨床場面での子どもと高齢者の評価実習（小枝，佐藤）</p> <p>12. 臨床場面での子どもと高齢者の評価実習（小枝，佐藤）</p> <p>13. 臨床場面での子どもと高齢者の評価実習（小枝，佐藤）</p> <p>14. 臨床場面での子どもと高齢者の評価実習（小枝，佐藤） ※クラスを3グループに分けて小児施設，高齢者施設での評価実習を行う</p> <p>15. 全体セミナー（小枝，佐藤）</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>本授業はグループ発表が基本である 予習：講義の資料、教科書の該当ページを読んでくること 次回のグループ発表の準備を行うこと 復習：実習内容を振り返り理解すること （予習・復習は最低でも各回1時間程度行う必要があります）</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	心理学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>福田恵美子編：発達過程作業療法学 第2版. 医学書院, 2014, 東京. 松房利憲, 小川恵子編：高齢期作業療法学 第2版. 医学書院, 2011, 東京.</p>
(21)参考文献	<p>田村亮子編：作業療法学全書 改定第3版 作業治療学3 発達障害. 協同医書出版社, 2010, 東京. 村田和香編：作業療法学全書 改定第3版 作業治療学4 老年期. 協同医書出版社, 2008, 東京. 福田恵美子編：人間発達学 改定第4版 中外医学社, 2017, 東京. その他は自主的に検索して勉強を進めてください。 学内実習に必要な資料の検索が難しい場合は担当教員に相談してください。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（実習への参加度。単なる出席回数ではない 評価全体の40%） 期末評価（毎回の実習終了後に、レポートを課す 評価全体の60%） 上記を合算して成績評価を行います</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	<p>グループ発表，実習 6-7名のグループに分かれて実施します</p>
(25)留意点・予備知識	<p>施設での実習であるため，よほどの事情がない限り遅刻，欠席は認められない 施設にご協力をいただいているので，常識的な行動を心がけること</p>
(26)オフィスアワー	毎週火・水曜日9：00-17：00
	ot_koeda@hirosaki-u.ac.jp

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	<p> 実習は出席することを原則とします 授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない グループで行う実習であるため、協調性のある言動には加点し、協調性に欠ける言動、学習意欲に欠ける態度等については減点する レポートは期限までに提出することを原則とする 期限を過ぎた場合は未提出として扱う 発表及び質疑応答については、それを行うことを原則とし、参加態度、論理性、妥当性について評価し、加減点を行う 臨床場面での評価実習内容の理解のためには学内実習の内容の理解が必須であるため、学内実習の内容はしっかり復習し理解すること </p>

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	13
(2)区分番号	13
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	人体機能学実習 (Practice of Human Body Physiology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7～9時限
(10)担当教員(所属)	○山田順子, 澄川幸志, 佐藤ちひろ, 西野純子(学外非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2～3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○ 生理学の基本となる現象例えば神経・筋の興奮時の電気現象伝導速度の測定等を各自が自身で再現する さらに刺激のパラメータを変え反応をみることによって多様な生命現象の中にある原則や共通性を理解する(見通す力) ○ 本実習は、将来臨床現場で行うことを想定し一歩つっこんだレベルでの検討が可能であり納得できるまで繰り返し許される貴重なトレーニングの場である。講義とは異なる実習の有用性についての理解を深めこれまで習得した知識、経験をふまえて生きている組織や器官が実際に、新鮮な状態でどう働いているのか自身で体得する(学び続ける力) ○ 将来、各専門領域の中で生理学的研究手法を必要とする時のため、基礎的なデータのまとめかた、コンピューターを含め種々の電子機器等の操作、プレゼンテーションの方法を習得する(解決する力)
(15)授業の概要	生体機能と発生メカニズムを学ぶため、生体に生じる現象をリアルタイムで観察、記録する。仮説をくみだて実験を通して検証する。個体差、環境など条件の違いによりデータが異なることを体感し、予想外の結果になった場合の検証方法もグループディスカッションを通して学ぶ。 実験結果発表会を行い、データのまとめ方、プレゼンテーションの方法も習得する。
(16)授業の内容予定	1) オリエンテーション、グループ分け、実験準備 2) 皮膚感覚 3) 血圧 4) SpO2 5) 心電図 6) 脳波 7) 誘発筋電図1 8) 誘発筋電図2 9) 試薬作成 10) カエルの活動電位記録 11) 聴覚 12) 平衡感覚 13) データ処理、発表準備 14) 発表1 15) 発表2
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	実習用プリントを読んで、課題に必要な生理学的知識を得ておく。一年生で受講した人体機能学および人体機能学演習の内容を復習すること。基本的な知識は教科書、プリント、ノートにあるので復習することになる。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-

(20)教材・教科書	人体機能学実習書（プリントで配布） コメディカル専門基礎科目 シリーズ 生理学（理工図書）
(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	出席回数、提出されたレポート、口頭試問および発表会における発表、質疑応答の結果を考慮して評価する。 実習のため欠席は減点する 欠席1回（4点）、遅刻は2回で欠席1回と同等。 発表およびレポート各10点、発表時の質問は5点加算する
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	グループに分かれ実験を行う 実験結果をグループでまとめパワーポイントを用いて発表会で発表する。
(25)留意点・予備知識	実習であるから遅刻や欠席は認めない。止むを得ない事情がある場合は速やかに担当教官に連絡すること。 配布されたプリントの事項を前以て調べること。
(26)オフィスアワー	随時、できるだけ事前に連絡をしてください。
(27)メールアドレス・HPアドレス	ivamada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cv/bouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2285&head=&hid=&sid=n&rev=&ssid=&fvid=18701&text=%8E%52%93%63%81%40%8F%87%8E%71&cal=

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	14
(2)区分番号	14
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床実習Ⅱ (FieldworkⅡ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日5～10時限
(10)担当教員(所属)	○小山内隆生, 加藤拓彦, 田中 真
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○高齢者及び精神障害者に対し身体機能と構造, 活動, 参加の側面の評価方法を修得する(見通す力) ○症例が生活する絵で解決すべき問題点を抽出する技術を修得する(解決する力)
(15)授業の概要	高齢者及び精神障害者と実際に面接し, その際に得られた種々の情報をもとに評価レポートを作成する さらに, 評価レポートをもとにセミナーを実施する
(16)授業の内容予定	第1回:オリエンテーション(全教員) 第2回~第13回: 臨床実習 愛成会病院(田中) 介護老人保健施設明生園(小山内) 学内セミナー(加藤) 第14回:全体セミナーでの発表準備(全教員) 第15回:全体セミナー(全教員)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	病院実習を行うに当たり, 予習は精神障がい関連講義の講義資料, 教科書, 参考資料等を熟読すること また, 病院実習を実施する度に, 前記資料を用い実習レポートの作成を要する
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	矢谷令子, 福田恵美子編:作業療法 実践の仕組み改訂第2版, 共同医書出版社, 2014, 東京. このほか事前に実習要綱を提示する
(21)参考文献	精神障がい関連講義の講義資料, 教科書, 参考資料等
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価方法及び採点基準 * 評価は実習状況, レポート提出, 最終発表及び質疑応答, 最終レポートにより到達目標の達成度の判定を行い, 以下の基準で加減点する ・実習は出席することを原則とし, 授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない ・グループで行う実習であることから, 協調性のある言動には加点し, 協調性に欠ける言動, 学習意欲に欠ける態度等については減点する ・レポートは期限までに提出することを原則とし, 期限後1日以内の提出は10点の減点, それ以降は未提出として扱い20点の減点とする ・発表及び質疑応答については, それを行うことを原則とし, 論理性や妥当性について評価し加減点を行う
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	4グループに分け, 実習とセミナーを組み合わせる 最終日に全体セミナーとして実習についての発表を行う
(25)留意点・予備知識	学外施設での実習であり, よほどの事情がない限り遅刻, 欠席は認められない
(26)オフィスアワー	作業療法技術学研究室 水曜日:午前9時から正午まで 金曜日:午前9時から午後6時まで
(27)メールアドレス・HPアドレス	加藤: takuhiko@hirosaki-u.ac.jp 小山内: osanai@hirosaki-u.ac.jp 田中: tanakam@hirosaki-u.ac.jp (@を半角に変換して使用してください) 教育者総覧 小山内: http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2337&text=%8F%AC%8E%52%93%E0&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid= 加藤: http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2076&text=%89%C1%93%A1&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid= 田中: http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2572&text=%93%63%92%86&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28)その他	連絡先: 作業療法技術学研究室: 39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	15
(2)区分番号	15
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体機能学 (Human Body Physiology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	山田順子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するC/P/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○生命現象のメカニズム(生理学)を理解する(見通す力) ○生命を維持する仕組みについての理解を深める(解決する力) ○国家試験合格に必要な知識を習得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	細胞、組織、器官には固有の特徴があり、すべてを統合した生命複合体が個体である。神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、運動器系などの仕組みを学び、統合された生体システムとしての働きを理解する。
(16)授業の内容予定	1. 細胞の一般生理：細胞の構造と機能について 2. 神経系の基本的機能 3. 神経系の機能 中枢、末梢、自律神経系 4. 感覚 5. 筋・運動 6. 運動制御 7. 血液 8. 循環 1 9. 循環 2 10. 呼吸 11. 消化吸収 12. 消化吸収、代謝 13. 腎臓 泌尿器系 14. 内分泌 15. 生殖 16. 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	高校で生物を学習しなかった人達は(あまり勉強してこなかった人達も含めて)生物選択者の大学入試レベルに達するように自学すること。講義は生物の基礎知識がわかっているものとして行います。 ”基礎から学ぶ生物学・細胞生物学(第二版)” 羊土社 ”シグマベスト”(文英堂) など
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	新版コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学(理工図書)
(21)参考文献	スタンダード生理学(文光堂 第3版) シンプル生理学(南江堂、改訂第6版)
(22)成績評価方法及び採点基準	試験の結果により評価する。 期末試験点数(合計100点)60点以上を合格とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	プリント、教科書の内容を板書、パワーポイントにより説明する。国家試験前の勉強に備えてノートを作っておくことを勧める。
	高校生物習得レベルの知識が必要

(25)留意 点・予備知識	
(26)オフィ スアワー	オフィスアワー：随時、できるだけ事前にメールなどで連絡をしてください。
(27)Eメール アドレス・ HPアドレス	ivamada@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&id=1988&vid=718&rid=2285&head=&hid=&sid=&rev=&ssid=&fvid=18701&text=%8E%52%93%63+%8F%87%8E%71+&cal=

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	16
(2)区分番号	16
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	神経系障害学 I (Nervous system disorders I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 1・2 時限
(10)担当教員(所属)	若山佐一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○神経系障害の理学療法や作業療法, リハビリテーションの基本的知識となる, 神経系の構造と機能を関連付けて理解する(見通す力) ○神経筋疾患・障害の疫学, 病態生理, 医学的治療の概念を理解する(見通す力) ○神経筋疾患・障害の障害構造(国際生活機能分類(ICF)), リハビリテーションアプローチについて理解する(見通す力, 解決する力)
(15)授業の概要	神経系の正常な構造と機能を復習し, これらの障害時の病態のメカニズム, 疾患概念, 治療や障害構造(ICF), 理学療法や作業療法, リハビリテーションについて学ぶ。
(16)授業の内容予定	6/19第1回: 神経系の正常な構造および機能 6/26第2回: 脳血管障害の基礎 7/ 3第3回: 脳血管障害の疾患概念と障害構造 7/10第4回: 高次脳機能障害 7/17第5回: パーキンソン病の基礎 7/24第6回: パーキンソン病 の概念と障害構造 7/31第7回: パーキンソンニズム 8/ 7第8回: まとめおよび期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	神経系の構造と機能の基本的な知識の復習と予習が必要です。 毎回, 前回授業の小テストを行うので, 授業内容をきちんと復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	神経科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	医療情報科学研究所編: 病気が見えるvol.7脳・神経, 第2版, 2017, メディックメディア
(21)参考文献	難病情報センター http://www.nanbyou.or.jp/ 田崎義昭他編: ベットサイドの神経の診かた, 南山堂 日本神経学会治療ガイドライン http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html 落合慈之監修: リハビリテーションビジュアルブック, 学研 江藤文夫他編: 神経内科学テキスト, 南江堂
(22)成績評価方法及び採点基準	原則として試験(小テストと期末試験, 各50%)の結果から評価する。授業参加度や態度を考慮する。 60点以上を合格とする。
(23)授業形式	講義

(24)授業形態・授業方法	スライドプロジェクションと配布資料, クリッカー (レスポンスカード) による講義を実施する。
(25)留意点・予備知識	神経系の正常な構造と機能の理解が前提となる。 人体形態学実習や機能学実習, 運動学実習を後期や同時期に学習するので, これらを予習することが必要です。
(26)オフィスアワー	オフィスアワー: (月, 水, 木) 17:40-18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	swaka
(28)その他	理学療法士として医療機関に勤務した経験から, 理学療法やリハビリテーションについて経験を踏まえた事例の話を組み入れている。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	17
(2)区分番号	17
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4 時限
(10)担当教員(所属)	高見彰淑
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○リハビリテーションの概念を理解する(見通す力) ○各種の障害や疾患に対して、理学療法・作業療法を施行する際の基本となるリハビリテーション医学に関する医学的知識を身につける(見通す力) ○治療前評価、治療効果判定評価、予防医学の重要性を理解する(解決しておく力) ○臨床実習につなげる知識を持つことで学識を得る(学び続ける力)
(15)授業の概要	<p>リハビリテーション医学の概念、障害の病態生理、各種疾患のリハビリテーションについて学ぶ。 また、リハビリテーションの予防医学を学ぶ。 患者や症例をみていないことが多いためDVDを用いてイメージをつけ理解を深める</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回：リハビリテーション総論(6/19) 第2回：医学的リハビリテーションの展開(6/26) 第3回：評価指標の活用について(7/3) 第4回：運動障害とは(7/10) 第5回：廃用症候群とその予防について(7/17) 第6回：転倒予防について(7/24) 第7回：運動発達、脳性麻痺(7/31) 第8回：リハビリ医学概要および予防の振り返りと筆記試験(8/7)</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>授業プリントの復習だけではなく、各回の授業内容部分を参考教科書で予習する。 小試験を通じ復習を行う</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	指定なし
(21)参考文献	落合慈之監修：リハビリテーションビジュアルブック 学研 中村隆一監修：入門リハビリテーション医学―第3版 医歯薬出版 椿原彰夫編著：PTOTSTナースを目指す人のためのリハビリテーション 総論 診断と治療社 米本恭三監修：最新リハビリテーション医学―第2版 医歯薬出版 千野直一編：現代リハビリテーション医学―改訂第3版 金原出版
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加度および試験（期末、小テスト）の結果により評価する。 成績：小テスト・授業参加度20%、筆記試験80% *60%以上で合格とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書、パワーポイント・ビデオ教材を主体に講義を進める。
(25)留意点・予備知識	授業開始時、前週の内容確認のための小テストを行う。
(26)オフィスアワー	基本的に随時。ただし、事前連絡が原則。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	高見彰淑 a-takami@hirosaki-u.ac.jp 、高見彰淑研究室（3階）
(28)その他	実務経験のある教員が臨床現場での経験を活かし講義・説明します。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	18
(2)区分番号	18
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	筋骨格系障害学
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○對馬栄輝, 尾田 敦
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	(1)解剖学、生理学、運動学と関連付けたうえで、整形外科学疾患の病態と治療法、リハビリテーションを理解する。(見通す力) (2)整形外科疾患・筋骨格系障害の疫学、病態生理、医学的治療の概念を理解する。(見通す力) (3)整形外科疾患・障害の障害構造(国際生活機能分類)、リハビリテーションアプローチについて理解する。(解決する力)
(15)授業の概要	筋骨格系障害学とは、整形外科学を基盤とするリハビリテーション医学である。 骨関節疾患・脊髄と末梢神経の疾患や外傷を対象とする理学療法・作業療法のための知識、リハビリテーションの実際を述べる。
(16)授業の内容予定	第1回：整形外科学とは、リハビリテーションとの関わりあい(對馬) 第2回：整形外科学的診断学(對馬) 第3回：軟部組織・骨関節の損傷総論(1)(對馬) 第4回：軟部組織・骨関節の損傷総論(2)(對馬) 第5回：整形外科学的治療法(對馬) 第6回：股関節部(骨盤含む)および大腿部の外傷と疾患(1)(對馬) 第7回：股関節部(骨盤含む)および大腿部の外傷と疾患(2)(對馬) 第8回：股関節部(骨盤含む)および大腿部の外傷と疾患(3)(對馬) 第9回：膝関節部および下腿部の外傷と疾患(1)(尾田) 第10回：膝関節部および下腿部の外傷と疾患(2)(尾田) 第11回：膝関節部および下腿部の外傷と疾患(3)(尾田) 第12回：肩関節および上腕の外傷と疾患(1)(尾田) 第13回：肩関節および上腕の外傷と疾患(2)(尾田) 第14回：四肢循環障害と切断(尾田) 第15回：学習状況の確認(試験含む)と振り返り(對馬・尾田)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 各テーマの冒頭回は、指定教科書の該当部分の予習が必要です。 [復習] 各テーマで講義した主要疾患の疫学・病態・治療・予後に関するまとめの作業が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	整形外科学テキスト 二瓶隆一・木村哲彦編集 南江堂 ※授業資料(尾田分)はグループウェア等で配信するので、各自ダウンロードして持参すること。
(21)参考文献	「標準整形外科学」石井清一ら監修 医学書院
(22)成績評価方法及び採点基準	● 期末試験 60% ● 授業の参加度 40%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	座学中心となり、スライド映写・資料を使用する。適宜追加資料を配布する。
(25)留意点・予備知識	本講義を理解するには、解剖学・運動学の基礎知識がないと理解が困難となる。 したがって、解剖学と運動学に関する基礎知識の復習を必ず行うておくこと。
(26)オフィスアワー	水曜日17:30-18:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	對馬栄輝: pteiki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	19
(2)区分番号	19
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	内科学 (Internal Medicine)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	丹藤雄介
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○基本的な医学知識を習得し、加えて国家試験に必要な内科系疾患の概要についても理解する ○近年ますます重要となっているチーム医療の考え方から、患者中心の医療をどのように達成するかを理解する
(15)授業の概要	理解しておくべき疾患(群)を各時間数項目取り上げます ①成因 ②病態生理 ③症状 ④身体所見 ⑤臨床検査所見 ⑥診断 ⑦治療 ⑧経過 ⑨予後 など について解説します
(16)授業の内容予定	第1回 医学概論 第2回 代謝・栄養障害 第3回 内分泌疾患 第4回 消化器疾患 第5回 肝・胆・膵疾患 第6回 循環器疾患(1) 第7回 循環器疾患(2) 第8回 呼吸器疾患 第9回 腎・尿路・男性生殖器疾患 第10回 血液・造血器疾患 第11回 感染症 第12回 アレルギー疾患 第13回～第15回 その他の疾患, トピックス等 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	○予習: 該当範囲の教科書を読むこと ○普段から医療・健康・介護に関するニュースに興味を持ち主体的に学ぶようにしてください
(18)学問分野1(主学問分野)	内科学一般関連

(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	感染・免疫学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	なるほどなっとく! 内科学 (南山堂)
(21)参考文献	内容の興味と余裕に応じて参考図書を推薦します
(22)成績評価方法及び採点基準	○出席点 (15点) + 試験 (85点) ○60点以上で単位取得とします
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	板書とスライド および配布資料で進行しますので、ノートを用意してください
(25)留意点・予備知識	○授業中の私語、携帯、スマホ使用 (マナーモードは可、メールのやり取り禁) は慎むこと ○授業の進行に支障がある場合は、退出を命じる場合もあります ○毎回出席を取ります
(26)オフィスアワー	月・金曜日10:00-12:00 予約必要, メールで連絡ください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ytando@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	20
(2)区分番号	20
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	保健医療福祉倫理学 (Ethics in Health Care and Medicine)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	川崎くみ子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会の医療状況と倫理的問題を理解する(見通す力) ○医療専門職に必要な倫理について理解する(見通す力) ○多様な専門職の役割とチーム医療のあり方を理解する(見通す力) ○チーム医療における多職種間の連携と協働について考える(見通す力・解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概要	高度化、複雑化した現代医療がもたらす様々な倫理的問題に注目し、今医療専門職に求められる専門性やチーム医療のあり方について考えていきます。
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> (4/17) 1. 現代社会の医療状況 (4/24) 2. 倫理(倫理原則、守秘義務、個人の権利など) (5/08) 3. ケア・ケアリング (5/15) 4. 専門職とチーム医療の必要性 (5/22) 5. チーム医療の要素(講義)、価値観の多様性 (GW) (5/29) 6. チーム医療におけるコミュニケーション(講義、GW) (6/05) 7. 各職種の専門性、役割および責任の理解(GW) (6/12) 8. チーム医療における連携と協働(GW)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>* これまでの学習内容を踏まえて、各自が目指す専門職の役割や望ましいあり方について、自分なりの考えをまとめておきましょう。</p> <p>* 各自が目指す専門職者集団が公表している倫理綱領、倫理規定などを理解しておきましょう。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特にありません。適宜、資料を配付します。
(21)参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミルトンメイヤロフ著, 田村真/向野宣之訳 : ケアの本質, ゆみる出版, 2000年 2. 川本隆史編 : ケアの社会倫理学, 有斐閣選書, 2005年 3. 菊井和子他編 : ケースで学ぶ医療福祉の倫理, 医学書院, 2008年 4. 水本清久他編 : 実践チーム医療論, 医歯薬出版(株), 2011年 5. 細田満和子著 : 「チーム医療」とは何か, 日本看護協会出版会, 2012年 6. 田村由美編 : 新しいチーム医療, 看護の科学社, 2012年 7. 井部俊子監 : 医療倫理学のABC 第2版, メヂカルフレンド社, 2012年 8. 福原麻希著 : チーム医療を成功させる10か条, 中山書店, 2013年 9. 白髪昌世編 : チーム医療と現場力, 日本医療企画, 2016年 10. 鈴鹿医療科大学編 : 医療人の基礎知識 第2版, 三重大学出版会, 2017年
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>成績評価の方法は、以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業の最後に各自の考えを問う課題を出します。(40%) 2. 最後にレポートを提出してもらいます。(60%) 詳細については、講義の後半で説明します。 <p>合計で、60%以上を合格とします。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> * 講義とグループワークを織り交ぜて行います。 * グループメンバーは、可能な限り5専攻の学生混合とします。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> * 5専攻共通の選択科目です。専門科目の学習が濃くなってきた今、他専攻の学生と話し合う機会が必要と考えます。 * みなさん自身の考えを問う機会を多くしますので、自分の考えを言葉や文字で表現することを
(26)オフィスアワー	特にオフィスアワーは設けていません。研究室へ来る場合には、事前にメールで連絡をして下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	* メールアドレス : kawayu@hirosaki-u.ac.jp (川崎くみ子)
(28)その他	特にありません。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	21
(2)区分番号	21
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	医療リスクマネジメント (Medical Risk Management)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員 (所属)	○野坂大喜, 高橋康幸, 吉田英樹, 澄川幸志, 野戸結花, 病院GRM (学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○過去に我が国で起きた医療事故・医療過誤の実例をもとに, その背景、要因, 防止対策を考察し, 医療リスクを軽減させ, 重大な医療過誤や医療事故を防ぐための取り組み, またリスク分析手法を理解する (見通す力, 解決していく力) ○医療事故の発生時には法的責任も生じることから, 過去の判例をもとに医療従事者が抱える法的リスクについて理解する (見通す力、解決していく力) ○自らが重大な医療過誤や医療事故の発生を防ぎ、安全な医療を提供できるようになるため, 医療リスクマネジメントの意義と内容について説明でき, かつ医療リスクマネジメント分析の基礎知識を習得する (見通す力、解決していく力)
(15)授業の概要	医療リスクマネジメントの意義を総合的に理解するため、医療リスクマネジメントが取り入れられた経緯、また異分野で行われているリスクマネジメント手法とその応用としての医療リスク解析方法を総論として学習します。各論としては多職種連携やチーム医療を踏まえ、看護学、放射線、臨床検査、理学療法、作業療法の各分野で発生した医療過誤や医療事故事例を資料として リスク分析を行い、予防に対する考え方を習得します。
(16)授業の内容 予定	第1回 6/19: 看護領域の医療リスクマネジメント (看護学専攻 野戸 結花) 第2回 6/26: 医療リスクマネジメント総論 (検査技術科学専攻 野坂 大喜) 第3回 7/03: 臨床検査領域の医療リスクマネジメント (検査技術科学専攻 野坂 大喜) 第4回 7/10: 放射線領域の医療リスクマネジメント1 (放射線技術科学専攻 高橋 康幸) 第5回 7/17: 放射線領域の医療リスクマネジメント2 (放射線技術科学専攻 高橋 康幸) 第6回 7/24: 医療現場の医療リスクマネジメント (医療安全推進室 山内 寿子) 第7回 7/31: 理学療法領域の医療リスクマネジメント (理学療法学専攻)

	攻 吉田 英樹) 第8 回 8/07：作業療法領域の医療リスクマネジメント（作業療法学専 攻 澄川 幸志)
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	各教員が提供する参考文献等あるいはパワーポイントでの事前学習と授業後の 再点検（復習）を行うこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	感染・免疫学関連
(19)実務経験の ある教員による授 業科目について	実務教員
(20)教材・教科 書	指定教科書はありません。 各専門領域の該当書籍を適宜使用してください。
(21)参考文献	1)WHO患者安全カリキュラムガイド メディカ出版 2)患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門 メディカ出版 3)医療安全ワークブック 医学書院 4)医療安全ことはじめ 医学書院 5)リハビリテーションリスク管理 ケーススタディ メディカルビュー社
(22)成績評価方 法及び採点基準	記述試験を行います。なお記述試験は毎回担当教員が小テストを行いますの で、各回の得点をもって総合評価を行います。 野坂大喜：筆記試験 60点以上を合格とします 野戸結花：筆記試験 60点以上を合格とします 吉田英樹：筆記試験 60点以上を合格とします 澄川幸志：筆記試験 60点以上を合格とします 高橋康幸：筆記試験 60点以上を合格とします 山内寿子：筆記試験 60点以上を合格とします 最終的に総合評価を行い、60点以上を合格基準とします。 再試験は行いませんので、最終評価における不合格者は再履修となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	野坂大喜：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 野戸結花：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 吉田英樹：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 澄川幸志：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 高橋康幸：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 山内寿子：講義形式 スライド・配布プリントにて行います
(25)留意点・予 備知識	本科目はオムニバス科目であり、各担当教員が授業最後に試験あるいはレポ ート課題等の提出を求めます。 半数以上の担当教員が1回のみ講義となりますので、すべての講義を受講 することが必要です。 病気などでやむを得ず欠席する場合は担当教員への連絡と対応方法について 必ず問い合わせを行ってください。
(26)オフィスア ワー	各教員にメールにて問い合わせのこと。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	野坂大喜： hnozaka@hirosaki-u.ac.jp 野戸結花： noto@hirosaki-u.ac.jp 吉田英樹： ptyoshi@hirosaki-u.ac.jp 澄川幸志： ot_sumi@hirosaki-u.ac.jp 高橋康幸： ytaka3@hirosaki-u.ac.jp

(28)その他

講師都合により順番が入れ替わる場合がありますが、その場合第1回目 に改めて変更の有無をお知らせします。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	22
(2)区分番号	22
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	運動学実習 (Exercise in Kinesiology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5～7 時限
(10)担当教員 (所属)	○對馬栄輝, 牧野美里, 高橋純平, 石川大瑛
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	1) 正常な人間の運動・動作を観察・分析し, 運動学の用語を用いて表現・記載することができるようになる。 2) 運動学的実験方法を習得し, 得られた結果の臨床的意義について理解を深める。
(15)授業の概要	運動学の知識をもとに, 正常な人間の運動と動作の分析を行う。 Bony landmarkといわれる関節運動を知るために重要な体表表面から触れる骨の触診を行う。 関節運動を知るために重要な体表表面から触れる筋の触診を行う。
(16)授業の内容予定	第1回: オリエンテーション, 基本用語, 上下肢の関節運動 第2回: 運動力学, 筋収縮 第3回: 頸・肩甲帯・肩関節のBony landmark, 筋群と運動 第4回: 肩関節の筋群と運動 第5回: 肘関節・前腕のBony landmark, 筋群と運動 第6回: 手関節・手のBony landmark, 筋群と運動 第7回: 股・膝・Bony landmark, 筋群と運動 第8回: 足関節・足部のBony landmark, 筋群と運動 第9回: 体幹のBony landmark, 筋群と運動 第10回: 姿勢保持機能の静力学的分析・運動分析の基礎・歩行分析 第11回: 中間試験 (実技) PART I (頸・上肢) 第12回: 中間試験 (実技) PART II (体幹・下肢) 第13回: 総合実験実習 1 第14回: 総合実験実習 2 第15回: 学習状況の確認 (試験含む) と振り返り
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	[予習] 各実習の前に, 該当する運動学の基礎を復習しておく。 [復習] 触診した骨指標, 筋の起始・停止, 運動, 神経支配に関する事項を必ず復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連 (医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	林 典雄：機能解剖学的触診技術2版（上肢），MEDICALVIEW 林 典雄：機能解剖学的触診技術2版（下肢），MEDICALVIEW
(21)参考文献	○基礎運動学第6版：中村隆一・斎藤 宏 著，医歯薬出版 ○カパンデイ関節の生理学I・II・III：荻島秀男監訳，医歯薬出版 ○運動学テキスト：細田 多穂 監修，南江堂
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（平常レポートなど）：30% 授業の参加度：20% 中間試験（実技テスト）：30% 期末試験：20% 上記を総合して最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	テキスト、プリントをもとに主にグループ演習・実習によって進めます。 演習・実習は10人前後のグループに分かれて行い、触診実習は2人1組で行います。教員4人が分担して指導します。 担当教員から冒頭のレクチャー、実習時間中の助言を受けることができます。
(25)留意点・予備知識	受講にあたって運動学の基礎知識が必要である。 授業は運動療法学実習室で行うので内履きで入室すること。 実技の準備として体表を振れやすい服装（Tシャツ，短パンを着用）で講義に臨むこと。
(26)オフィスアワー	木曜日 16：00～18：00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	對馬栄輝：pteiki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	実技を行う上で身体的な支障（四肢の肌を露出できない事情がある、身体的な運動制限がある等）がある場合は事前に相談すること。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	23
(2)区分番号	23
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体障害作業療法評価学実習 (Practice of Occupational Therapy Assessments for Physical Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 2～4 時限
(10)担当教員(所属)	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○身体障害領域の作業療法評価を実施できる(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	これまで学んできた作業療法評価学の理論的背景を基礎として, 具体的評価手法を身につけることを目的とする。
(16)授業の内容予定	<p>1: オリエンテーション, 【講義】摂食・嚥下機能, 構音機能, 喀痰吸引</p> <p>2: 精神機能の評価, ADLの評価, 身体機能(自律機能)の評価, 口頭試問</p> <p>3: 身体構造の評価</p> <p>4: 身体構造の評価</p> <p>5: 身体構造の評価, 口頭試問</p> <p>6: 身体機能(筋緊張, 反射, 筋力)の評価</p> <p>7: 身体機能(筋緊張, 反射, 筋力)の評価</p> <p>8: 身体機能(筋緊張, 反射, 筋力)の評価, 口頭試問</p> <p>9: 身体機能(随意運動機能, 協調運動)の評価</p> <p>10: 身体機能(随意運動機能, 協調運動)の評価, 口頭試問</p> <p>11: 身体機能(感覚機能)の評価</p> <p>12: 身体機能(感覚機能)の評価, 口頭試問</p> <p>13: 身体機能(脳神経)の評価</p> <p>14: 身体機能(脳神経)の評価, 口頭試問</p> <p>15: 学習状況の確認(期末試験を含む)</p> <p>16: 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として, 今までの講義の資料, 教科書の該当ページを読んでください。</p> <p>授業内では, 不明な点や疑問点を解決してください。</p> <p>復習として, 講義内容を想起しながら, 講義の資料, 教科書の該当ページをよく読んで理解してください。</p> <p>※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
	健康科学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学 (協同医書出版社) 作業療法学全書 第4巻 身体障害 (協同医書出版社) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版) 見てわかる医療スタッフのための痰の吸引 (学研) 身体障害作業療法学講義時に配布した資料
(21)参考文献	作業療法評価学 (医学書院) 身体機能作業療法学 (医学書院)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (実技への参加度, 口頭試問など) : 60% 期末評価 (期末試験) : 40%
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	身体障害作業療法学の講義で学んだ評価方法について, 小グループで実技を行います。 疑問はそのままにせず, 質問や自己学習で解決してください。 実技はグループ全員で行ってください。 参加していないことが判明した場合には, 評価点を無効にします。
(25)留意点・予備知識	実習は, 予定表にしたがって行います。実習の内容について, あらかじめ予習してきてください。 実習時のすべてのこと (服装, 言動など) は, 臨床場面を想定して行ってください。 実習は, 3人一組で行います。互いに検査者, 被験者を経験してください。 実習は, 身体の運動を伴うため, 動きやすい服装 (ジャージ, セラピストスーツなど) でのぞんでください。運動制限を生じる服装は避けてください。 実習内容については, 復習してください。
(26)オフィスアワー	火曜日 : 9:00~11:30 水曜日 : 9:00~11:30 金曜日 : 9:00~11:30 D-4-1平川研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhira@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし, 事例を提示しながら授業を行います。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	24
(2)区分番号	24
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神障害地域作業療法学 (Community Based Rehabilitation for Mental Disorders)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○加藤拓彦, 貴田岡武(学外非常勤講師), 井原一成(学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○精神障害者に対する地域にあるサポートシステムを理解する(見通す力) ○地域における精神障がい者に対するリハビリテーション現状を理解する(見通す力) ○地域住民の身体的・精神的健康状態の把握と疾病予防について理解する(解決する力)
(15)授業の概要	精神障がい者に対する地域にあるサポートシステムについての概要, 地域住民の身体および精神の健康状態の把握方法や疾病予防についてその基礎となる考え方を学ぶ。
(16)授業の内容予定	1: オリエンテーション, 地域精神医療 (加藤) 2: 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (加藤) 3: 障害者総合支援法 (加藤) 4: アウトリーチ事業、就労支援対策 (貴田岡) 5: 地域住民の身体的・精神的健康について (井原, 加藤) 6: 地域住民の疾病予防に関する基礎知識 (井原, 加藤) 7: 地域住民に対する健康状態の評価方法 (井原) 8: 地域住民の健康維持向上に関する実践に必要な指導・援助技術 (井原)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習では厚生労働省ホームページにて関連法規(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法)を一読しておくこと。 復習では、毎回の講義内容において作業療法が関わりを持つ必要性が生じるであろう事象を参考文献に当たり整理すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	随時資料を提示する。
(21)参考文献	生活を支援する精神障害作業療法—急性期から地域実践まで 第2版 香山 明美(編集), 鶴見 隆彦(編集), 小林 正義(編集), 医歯薬出版 作業療法学全書 第13巻 地域作業療法学 太田・編, 共同医書出版
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は参加態度, 課題レポートおよび期末評価により到達目標の達成度の判定を行い, 以下の基準で加減点する。 ・参加態度(30%): 授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない。授業中の学習意欲に欠ける態度等については減点する。 ・課題レポート(30%): 期限までに提出することを原則とし, 期限後1日以内の提出は10点の減点, それ以降は未提出として扱う。 ・期末評価(40%): 本授業では期末課題レポートを課す。 上記の合計点が6割以上の者に単位を付与する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を中心とする。レポート課題を提示する。
(25)留意点・予備知識	厚生労働省ホームページにて関連法規(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者自立支援法)を一読しておくこと。
(26)オフィスアワー	作業療法技術学研究室 水曜日: 午前9時から正午まで 金曜日: 午前9時から午後6時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takuhiko@hirosaki-u.ac.jp (@を半角に変換して使用してください)
(28)その他	岩木プロジェクト検診事業への参加により, 地域住民の健康推進活動を学ぶ。 連絡先: 作業療法技術学研究室: 39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	25
(2)区分番号	25
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体疾患別作業療法学 (Occupational Therapy Treatment for Disabled Persons)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8 時限
(10)担当教員(所属)	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○身体障害領域の作業療法を展開できる(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	身体疾患による障害者の作業療法に必要な知識と技術を理解することを目的とする。
(16)授業の内容予定	<p>1: オリエンテーション, 【演習】身体疾患別作業療法</p> <p>2: 【講義・発表】身体疾患別作業療法(脳血管障害・頭部外傷)</p> <p>3: 【講義・発表】身体疾患別作業療法(脊髄損傷・その他の脊髄疾患)</p> <p>4: 【講義・発表】身体疾患別作業療法(末梢神経損傷・上肢と手の外傷)</p> <p>5: 【講義・発表】身体疾患別作業療法(熱傷・関節リウマチとその他の関節疾患)</p> <p>6: 【演習】症例1-1(脳血管障害)</p> <p>7: 【発表】症例1-1(脳血管障害)</p> <p>8: 【演習】症例1-2(脳血管障害)</p> <p>9: 【発表】症例1-2(脳血管障害)</p> <p>10: 【演習】症例2-1(頸髄損傷)、症例3-1(関節リウマチ)</p> <p>11: 【発表】症例2-1(頸髄損傷)、症例3-1(関節リウマチ)</p> <p>12: 【演習】症例2-2(頸髄損傷)、症例3-2(関節リウマチ)</p> <p>13: 【発表】症例2-2(頸髄損傷)、症例3-2(関節リウマチ)</p> <p>14: 【講義】身体疾患別作業療法(慢性中枢神経疾患・神経疾患・筋疾患)</p> <p>15: 【講義】身体疾患別作業療法(内部障害・腫瘍)</p> <p>16: 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として, 今までの講義の資料, 教科書の該当ページを読んでください。</p> <p>授業内では, 不明な点や疑問点を解決してください。</p> <p>復習として, 講義内容を想起しながら, 講義の資料, 教科書の該当ページをよく読んで理解してください。次回に向けた課題を行ってください。</p> <p>※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)

(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学 (協同医書出版社) 作業療法学全書 第4巻 身体障害 (協同医書出版社) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版) 見てわかる医療スタッフのための痰の吸引 (学研)
(21)参考文献	作業療法評価学 (医学書院) 身体機能作業療法学 (医学書院) これまでの授業で使用した教科書や配布資料
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (討論への参加度, レポート, 発表, 口頭試問など) : 50% 期末評価 (期末試験) : 50%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	身体疾患別作業療法の講義を行い, 理解を深めるために, 演習, 発表, 討論, 口頭試問も行います.
(25)留意点・予備知識	疑問はそのままにせず, 質問や自己学習で解決してください. 積極的に参加してください. 発表の準備はグループ全員で行ってください. 参加していないことが判明した場合には, 評価点を無効にします.
(26)オフィスアワー	火曜日 : 9:00~11:30 水曜日 : 9:00~11:30 金曜日 : 9:00~11:30 D-4-1平川研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhira@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし, 事例を提示しながら授業を行います.

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	26
(2)区分番号	26
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体障害作業療法学演習 (Seminar of Occupational Therapy Theory and Process for Physical Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○身体障害領域の作業療法を展開できる(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	これまで学んできた基礎作業学, 身体障害作業療法学, 日常生活活動能力学などの理論的背景を基礎として, 身体障害作業療法の展開が可能になることを目的とする.
(16)授業の内容予定	<p>1: 【講義】生活の流れの分析, 動作分析について</p> <p>2: 【演習】生活の流れの分析</p> <p>3: 【発表】1日の生活(就学時)の分析, 1日の生活(休日)の分析</p> <p>4: 【発表】1日の生活の分析(就学時と休日の比較)</p> <p>5: 【演習】生活の流れの分析(まとめ)</p> <p>6: 【演習】動作分析(歯磨き, 化粧, 調理: 野菜炒め, 調理: カレー)</p> <p>7: 【発表】動作分析(歯磨き), 動作分析(化粧)</p> <p>8: 【演習】動作分析(歯磨き, 化粧, 調理: 野菜炒め, 調理: カレー)</p> <p>9: 【発表】動作分析(調理: 野菜炒め), 動作分析(調理: カレー)</p> <p>10: 【演習】動作分析(更衣: 前開き服, 更衣: かぶり服, 更衣: ズボン, 洗濯)</p> <p>11: 【発表】動作分析(更衣: 前開き服), 動作分析(更衣: かぶり服)</p> <p>12: 【発表】動作分析(更衣: ズボン), 動作分析(洗濯)</p> <p>13: 【講義】作業活動とその治療的意義について</p> <p>14: 【演習】動作分析(折り紙作業)</p> <p>15: 【演習】折り紙作業における知的活動の分析, 折り紙作業の各要素動作に変化を与える要因の検討</p> <p>16: 【発表】折り紙作業における知的活動の分析, 折り紙作業の各要素動作に変化を与える要因の検討</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として, 今までの講義の資料, 教科書の該当ページを読んでください.</p> <p>授業内では, 不明な点や疑問点を解決してください.</p> <p>復習として, 講義内容を想起しながら, 講義の資料, 教科書の該当ページ</p>

	<p>ジをよく読んで理解してください。次回に向けた課題を行ってください。</p> <p>※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連 (医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	これまでの授業で使用した教科書や配布資料
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (討論への参加度, レポート, 発表, 口頭試問など) : 100%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	課題についての発表, 討論, 口頭試問を中心に進めます。
(25)留意点・予備知識	<p>疑問はそのままにせず, 質問や自己学習で解決してください。積極的に参加してください。</p> <p>発表の準備はグループ全員で行ってください。</p> <p>参加していないことが判明した場合には, 評価点を無効にします。</p>
(26)オフィスアワー	<p>火曜日 : 9:00~11:30</p> <p>水曜日 : 9:00~11:30</p> <p>金曜日 : 9:00~11:30</p> <p>D-4-1 平川研究室</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhira@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし, 事例を提示しながら授業を行います。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	27
(2)区分番号	27
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	発達障害作業療法評価学
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	小枝周平
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○人間発達に関する知識を深め、発達に困難を抱える人を見るための知識を修得する(見通す力) ○発達障害の作業療法を展開するために必要な知識と発想力を修得する(見通す力) ○発達障害の作業療法で使用する検査を理解し、対象者の抱える問題を適切に評価する視点を修得する(解決する力)
(15)授業の概要	人間発達に関する知識を踏まえた上で、発達時期に受けた心身機能の障害により日常生活の自立や社会的行動に障害をきたしている子どもたちに対する作業療法について講義する
(16)授業の内容予定	1. オリエンテーション、発達期障害の作業療法概論 2. 子どもの発達① 粗大運動の発達と評価 生後6か月まで 3. 子どもの発達② 粗大運動の発達と評価 生後6か月以降 4. 子どもの発達③ 微細運動の発達と評価 5. 子どもの発達④ 認知機能、社会性の発達と評価 6. 子どもの発達⑤ ADL、遊びの発達と評価 7. 発達障害の治療法 各種治療理論概説、福祉機器の使用 8. まとめ、テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 講義の資料、教科書の該当ページを読むこと 復習: 実習内容を振り返り理解すること (予習、復習は最低でも各1時間程度行う必要があります)
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
	実務教員

(19)実務経験のある 教員による授業科目に ついて	
(20)教材・教科書	講義資料 福田恵美子編：発達過程作業療法学 第2版. 医学書院, 2014, 東京. 福田恵美子編：人間発達学 改定第4版 中外医学社, 2017, 東京.
(21)参考文献	田村亮子編：作業療法学全書 改定第3版 作業治療学3 発達障害. 協 同医書出版社, 2010, 東京.
(22)成績評価方法及 び採点基準	平常評価（実習への参加度 単なる出席回数ではない 評価全体の 40%） 期末評価（講義の8回目にテストを実施します 評価全体の60%） 上記を合算して成績評価を行います
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業 方法	講義形式
(25)留意点・予備知 識	授業中の学習意欲に欠ける態度等については大きく減点する
(26)オフィスアワー	毎週水曜日9：00～17：00 毎週木曜日9：00～12：00
(27)Eメールアドレス ・HPアドレス	ot_koeda@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	授業回数が少ないので、欠席回数について注意すること

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	28
(2)区分番号	28
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体障害作業療法評価学
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○身体障害領域の作業療法評価の意義と方法を理解する（見通す力，解決していく力）
(15)授業の概要	身体障害領域の作業療法評価に必要な知識を学習する。
(16)授業の内容予定	1：活動・参加 2：活動・参加 3：身体構造（形態，関節），医用画像の見方 4：身体機能（運動機能），医用画像の見方 5：身体機能（運動機能） 6：身体機能（感覚機能，痛み，自律機能，脳神経），医用画像の見方 7：身体機能（摂食・嚥下機能，構音機能），医用画像の見方 8：高次脳機能，医用画像の見方
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習として，今までの講義の資料，教科書の該当ページを読んでください。 授業内では，不明な点や疑問点を解決してください。 復習として，講義内容を想起しながら，講義の資料，教科書の該当ページをよく読んで理解してください。 ※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連（医学）
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法評価学（医学書院） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） 新・徒手筋力検査法（協同医書出版）
(21)参考文献	作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学（協同医書出版社） 作業療法学全書 第4巻 身体障害（協同医書出版社） 身体機能作業療法学（医学書院）
	平常評価（参加度，小テスト，レポートなど）：100%

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を行います。 疑問はそのままにせず、質問や自己学習で解決してください。 小テストやレポート課題によって理解度を確認します。
(25)留意点・予備知識	受講時点までのすべての科目について、その内容を十分に理解しておいてください。
(26)オフィスアワー	火曜日：9:00～11:30 水曜日：9:00～11:30 金曜日：9:00～11:30 D-4-1平川研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhi ra@hi rosaki -u. ac. jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし、事例を提示しながら授業を行います。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	29
(2)区分番号	29
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	生活支援作業療法学 (Occupational Therapy Theory and Process for Living Skills)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	上谷英史, 伊藤伸(学外非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○障がい者に対して作業療法士が生活支援を行うのに必要な福祉用具および生活環境(特に住環境)に関する基礎的知識について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	福祉用具や生活環境は、社会情勢や法制度の整備と合わせて大きく改変しており、作業療法士はその選定・適合の支援において大きな役割を持つ。 作業療法士として福祉用具と生活環境の治療を行うためには、環境因子にのアセスメントとアシスティブ・テクノロジーの理解が必要である。また、様々な関連する制度(介護保険法等)の理解が必要である。 これらの知識を獲得し、その知識をもとに作業療法による訓練・指導に活用できるようにする。
(16)授業の内容予定	1週 生活支援総論(上谷英史) 2週 治療手段・生活課題(上谷英史) 3週 福祉用具総論(上谷英史) 4週 家屋・環境調整(空調、調光)(上谷英史) 5週 道具操作(上谷英史) 6週 姿勢保持、リーチ、椅子、机、収納(上谷英史) 7週 移乗、移動(通路、庭、ベランダ)、運搬(上谷英史) 8週 疾患別(脊髄損傷)の日常生活に関する福祉用具1(伊藤伸) 9週 疾患別(脊髄損傷)の日常生活に関する福祉用具2(伊藤伸) 10週 疾患別(脳血管疾患)の日常生活に関する福祉用具3(上谷英史) 11週 疾患別(関節リウマチ)の日常生活に関する福祉用具4(上谷英史) 12週 疾患別(その他)の日常生活に関する福祉用具5(上谷英史) 13週 公共施設、情報・流通(上谷英史) 14週 関連法規1(上谷英史) 15週 関連法規2(上谷英史) 16週 期末試験(上谷英史)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は、次回の講義に該当する教科書及び配布された資料に目を通し理解すること。 復習は、授業の内容を再度確認し理解すること。
	健康科学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・ 住環境整備 協同医書出版社
(21)参考文献	テクノエイド協会ホームページ (http://www.techno-aids.or.jp/)
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（授業への参加度。小テスト。単なる出席回数ではない。評価全体の 30%） 期末評価（理解度の確認。評価全体の70%） 上記を合算して最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	基本は講義形式で行います。授業の最後に質問を受け付け、それに対して回 答します。
(25)留意点・予備 知識	今まで受講した作業療法に関する知識と疾患に関する知識を確認すること。
(26)オフィスア ワ ー	(質問に関する連絡先等) D-4-2教員研究室（上谷） (オフィスアワー) 月曜日: 15:00~17:00 火曜日: 13:00~17:00 水曜日: 13:00~17:00 木曜日: 16:00~17:00 金曜日: 15:30~17:00
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	E-mailアドレス) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	30
(2)区分番号	30
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	日常生活活動能力学実習 (Practice of Activity of Daily Living on Occupational Therapy)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5～7時限
(10)担当教員(所属)	○上谷英史, 澄川幸志
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○日常生活活動分析の技能を習得する(見通す力, 解決する力) ○基本動作(起き上がり動作, 立ち上がり動作など)指導方法の技能を体得する(見通す力, 解決する力)
(15)授業の概要	日常生活活動や基本動作を理解することにより、客観的に評価する手法および治療技術について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション (上谷英史, 澄川幸志) 第2回から第13回：実習 (3つの課題について4回ずつ実習を行う。) (上谷英史, 澄川幸志) 課題1 起居移動動作とその介助法について 課題2 健常者のトイレ動作の動作分析 課題3 健常者の入浴動作の動作分析 第14回：発表準備 (上谷英史, 澄川幸志) 第15回：発表 (上谷英史, 澄川幸志) それぞれの課題をレポートとして提出する。 最後に行った課題は、発表を行う。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習は、今までの講義の資料および教科書の該当するページに目を通し理解すること。また、実習課題の結果を予測しておくこと。また、どのように結果をまとめたらいいか検討しておくこと。 復習は、この課題の結果を対象者に対してどのように利用可能か考察すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動
(21)参考文献	図書館で閲覧可能「ADL：作業療法の戦略・戦術・技術 / 生田宗博編」
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。単なる出席回数ではない。評価全体の30%） 期末評価（期末発表。評価全体の70%） 上記を合算して最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	主にグループ学習・研究によって進めます。
(25)留意点・予備知識	今まで受講した作業療法に関する知識（とくに日常生活活動能力学）を復習しておくこと ジャージorセラピストスーツ準備をしておくこと
(26)オフィスアワー	(質問に関する連絡先等) D-4-2教員研究室（上谷） (オフィスアワー) 月曜日：15:00～17:00 火曜日：13:00～17:00 水曜日：13:00～17:00 木曜日：16:00～17:00 金曜日：15:30～17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(E-mailアドレス) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	31
(2)区分番号	31
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	臨床実習Ⅲ (Fieldwork Ⅲ)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	9
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	作業療法学専攻教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○対象者の評価, 作業療法計画の立案, 治療・指導・援助の実施, 再評価, 記録および報告といった一連の治療行為を習得する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○職業人としての望ましい態度や行動について理解する(見通す力) ○専門職間におけるチーム・ワークを体得し, その中での作業療法の意義や, 作業療法士の役割と機能を理解する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○病院・施設の組織とその機能を理解する(見通す力, 解決する力) ○作業療法士として, 今後進むべき方向や研究テーマの設定に関連する学識を得る(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○自己認識を深め, 問題解決能力を修得する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	臨床実習(Ⅲ・Ⅳ)は、学校教育における最後の臨床教育課程であり、臨床実習指導者の下で、作業療法に関する専門的知識・技術の習得および応用を学ぶ機会である。更に職業人として必要な倫理と感性を養う場でもある。
(16)授業の内容予定	2019年4月1日(月)～5月31日(金)：臨床実習(作業療法学専攻教員) 2019年6月5日(水)：臨床実習セミナー(作業療法学専攻教員)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	実習の条件は、1年から3年までのすべての必修科目について復習しておくこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	臨床実習指導者成績：50% レポート・課題：25% セミナー発表：25% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	各自決定した施設にて、臨床実習指導者のもと臨床実習を進めます。
(25)留意点・予備知識	3年までに学習した内容をすべて復習し実習に臨むこと。
(26)オフィスアワー	代表：上谷 英史 相談及び連絡は0172-39-5991に。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	代表：上谷 英史 (E-mailアドレス) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	32
(2)区分番号	32
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	臨床実習Ⅳ (Fieldwork Ⅳ)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	9
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	作業療法学専攻教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○対象者の評価, 作業療法計画の立案, 治療・指導・援助の実施, 再評価, 記録および報告といった一連の治療行為を習得する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○職業人としての望ましい態度や行動について理解する(見通す力) ○専門職間におけるチーム・ワークを体得し, その中での作業療法の意義や, 作業療法士の役割と機能を理解する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○病院・施設の組織とその機能を理解する(見通す力, 解決する力) ○作業療法士として, 今後進むべき方向や研究テーマの設定に関連する学識を得る(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○自己認識を深め, 問題解決能力を修得する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	臨床実習(Ⅲ・Ⅳ)は、学校教育における最後の臨床教育課程であり、臨床実習指導者のもとで、作業療法に関する専門的知識・技術の習得および応用を学ぶ機会である。更に職業人として必要な倫理と感性を養う場でもある。
(16)授業の内容予定	2019年6月10日(月)～8月2日(金)：臨床実習(作業療法学専攻教員) 2019年8月7日(水)：臨床実習セミナー(作業療法学専攻教員)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	実習の条件は、1年から3年までのすべての必修科目について復習しておくこと。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	臨床実習指導者成績：50% レポート・課題：25% セミナー発表：25% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	各自決定した施設にて、臨床実習指導者のもと臨床実習を進めます。
(25)留意点・予備知識	3年までに学習した内容をすべて復習し実習に臨むこと。
(26)オフィスアワー	代表：上谷 英史 相談及び連絡は0172-39-5991に。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	代表：上谷 英史 (E-mailアドレス) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	33
(2)区分番号	33
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神医学 (Psychiatry)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	和田一丸
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○精神障害者の症状および精神疾患の診断・治療について理解する(見通す力) ○精神的・心理的・社会的な存在としての人間を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	精神医学について、特に精神症状学、精神科診断学、精神科治療学、精神医学と社会とのかかわりを中心に総論的に講義を行う。
(16)授業の内容予定	第1回 精神医学とは 第2回 精神疾患概説1 第3回 精神疾患概説2 第4回 精神疾患概説3 第5回 精神症状学(意識障害・知能障害・記憶障害) 第6回 精神症状学(幻覚・思考障害・感情障害) 第7回 精神症状学(自我障害・欲動障害・行動障害) 第8回 精神医学における診察と診断 第9回 精神科治療学(総論) 第10回 精神科治療学(薬物療法) 第11回 精神科治療学(精神療法) 第12回 認知症 第13回 老年期の精神障害 第14回 精神医学と社会とのかかわり1 第15回 精神医学と社会とのかかわり2 15回の講義終了後、期末試験を実施する
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	シラバスに記載された各回の授業の内容予定を参考に、教科書の該当箇所を授業前までに予習、授業後に復習すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	標準精神医学 第7版(医学書院)を使用
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (授業への参加度を含む): 30% 期末評価 (期末試験): 70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が中心で適宜プリントを配布する。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	随時 (午後5～6時が望ましい)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kw@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	34
(2)区分番号	34
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地域作業療法学
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○加藤拓彦, 上谷英史
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○精神障害者に対する地域にあるサポートシステムを理解する(見通す力) ○地域における精神障がい者に対するリハビリテーション現状を理解する(見通す力) ○地域住民の身体的・精神的健康状態の把握と疾病予防について理解する(解決する力)
(15)授業の概要	障がい者に対する地域にあるサポートシステムについての概要, 地域住民の身体および精神的健康状態の把握方法や疾病予防についてその基礎となる考え方を学ぶ。
(16)授業の内容予定	1: オリエンテーション、地域精神医療 (加藤拓彦) 2: 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (加藤拓彦) 3: 障害者総合支援法、アウトリーチ事業 (加藤拓彦) 4: 就労支援 (加藤拓彦) 5: デイケア (加藤拓彦) 6: 社会資源の活用、地域連携 (加藤拓彦) 7: ケアマネジメント、ACT (加藤拓彦) 8: 身体障がい者に対する地域生活支援 (上谷英史) 9: 地域作業療法について (上谷英史) 10: 地域作業療法における評価と支援 (上谷英史) 11: 関連法規と施設・サービス内容 (上谷英史) 12: 介護保険の概要について (上谷英史) 13: 介護保険とケアマネジメントについて (上谷英史) 14: 身体障がい者に関連する障害者総合支援法について (上谷英史) 15: 在宅高齢者・障がい者に対する作業療法の実際 (上谷英史) 16: テスト
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習では厚生労働省ホームページにて関連法規(老人福祉法, 知的障害者福祉法, 精神保健福祉法, 介護保険法, 障害者雇用促進法, 障害者総合支援法, 障害者差別解消法)を一読しておくこと。 復習では、毎回の講義内容において作業療法が関わりを持つ必要性が生じるであろう事象を参考文献に当たり整理すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	随時資料を提示する。
(21)参考文献	

	生活を支援する精神障害作業療法—急性期から地域実践まで 第2版 香山 明美 (編集), 鶴見 隆彦 (編集), 小林 正義 (編集), 医歯薬出版 作業療法学全書 第13巻 地域作業療法学 太田・編, 共同 医書出版
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は参加態度, 課題レポートおよび期末評価により到達目標の達成度の判定を行い, 以下の基準で加減点する。 ・参加態度 (30%) : 授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない。授業中の学習意欲に欠ける態度等については減点する。 ・課題レポート (30%) : 期限までに提出することを原則とし, 期限後1日以内の提出は10点の減点, それ以降は未提出として扱う。 ・期末評価 (40%) : 本授業では期末課題レポートを課す。 上記の合計点が6割以上の者に単位を付与する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を中心とする。レポート課題を提示する。
(25)留意点・予備知識	厚生労働省ホームページにて関連法規を一読しておくこと。
(26)オフィスアワー	加藤 (作業療法技術学研究室) 水曜日 : 午前9時から正午まで 金曜日 : 午前9時から午後6時まで 上谷 (D-4-2教員研究室) 月曜日 : 16:00~17:00 火曜日 : 16:00~17:00 水曜日 : 13:00~17:00 木曜日 : 16:00~17:00 金曜日 : 16:00~17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	takuhi ko@hirosaki-u.ac.jp (加藤) kamihi de@hirosaki-u.ac.jp (上谷) @を半角に変換して使用してください
(28)その他	連絡先: 作業療法技術学研究室 : 39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	35
(2)区分番号	35
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	神経系障害学演習 (Seminar of Nervous system disorders)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	若山佐一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体 的到達目標	○神経系障害の理学療法や作業療法, リハビリテーションの基本的知識となる神経系の構造と機能を関連付けて理解する(見通す力) ○神経筋疾患・障害の疫学、病態生理、医学的治療の概念を理解する(見通す力) ○神経筋疾患・障害の障害構造(国際生活機能分類(ICF)), リハビリテーションアプローチについて理解する(解決する力) ○事例演習により神経筋疾患・障害事例について具体的かつ実践的に理解する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	神経系の正常な構造と機能を復習し, これらの障害時の病態のメカニズム, 疾患概念, 治療や障害構造(ICF), 理学療法や作業療法, リハビリテーションについて学ぶ。
(16)授業の内容予定	10/ 7第 1回: パーキンソニズム, 小脳症状と小脳疾患 10/21第 2回: 脊髄小脳変性症, 多系統萎縮症 10/29第 3回: 月曜日授業日 脱髄疾患(多発性硬化症) 11/ 6第 4回: 月曜日授業日 運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症) 11/11第 5回: 運動ニューロン疾患(その他の神経原性筋萎縮症) 11/18第 6回: 知覚障害とニューロパチー 11/25第 7回: ギラン・バレー症候群, 慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー 12/ 2第 8回: 中間まとめおよび中間試験 12/ 9第 9回: 末梢性顔面神経麻痺 12/16第10回: 筋萎縮とミオパチー, 進行性筋ジストロフィー症デュシェンヌ型 12/23第11回: 多発性筋炎・皮膚筋炎, 重症筋無力症, その他のミオパチー 1/ 6第12回: 神経系の感染性疾患, 全体のまとめ 1/15第13回: 月曜日授業日 リハ医学演習合同授業; 学生発表5組各30分間, 質疑含 1/20第14回: リハ医学演習合同授業; 学生発表5組各30分間, 質疑含 1/27第15回: 期末まとめおよび期末試験 2/ 3第16回: 後期総合試験(期末試験後の総合評価が合格点に満たない場合に受験)
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	毎回の授業内容はテキスト等により予習して臨むこと。 前回実施内容の小テストを毎回行うので, 授業内容を復習する。 神経系の構造と機能の理解が前提となるので, 毎回関係するところの予習と復習が必要です。
(18)学問分野1(主学問 分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問 分野)	神経科学関連
(18)学問分野3(副学問 分野)	生体の構造と機能関連
(19)実務経験のある教 員による授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教科書	医療情報科学研究所編: 病気が見えるvol. 7脳・神経, 第2版, 2017, メディックメディア

(21)参考文献	<p>難病情報センター http://www.nanbyou.or.jp/ 田崎義昭他編：ベットサイドの神経の診かた, 南山堂 日本神経学会治療ガイドライン http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html 落合慈之監修：リハビリテーションビジュアルブック, 学研 江藤文夫他編：神経内科学テキスト, 南江堂</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>試験(小テスト, 中間試験, 期末試験各々30%), 授業参加状況と発表(10%)により総合評価する。 60点以上を合格とする。 期末試験後の総合評価で合格点に満たない場合には総合試験を受験すること。</p>
(23)授業形式	<p>演習</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>講義はスライドプロジェクションと配布資料, クリッカー(レスポンスカード)により実施する。 演習は, リハビリテーション医学演習との合同により, 各専攻2-3名計4-5名を1班とする10班にて行う。 各班にて1疾患・障害を選択し, 具体的事例を設定し, 症状経過や進行経過もフォローした上で, 最新の治療, リハビリテーションについて配布資料を作り発表する。 各班の持ち時間は質疑を含め30分間。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>神経系の構造と機能の基本的な知識が前提となる。 グループ別演習については, 発表内容について11月~12月中に事前指導を受け, 準備開始すること。</p>
(26)オフィスアワー	<p>若山研究室(325)(月, 水, 木)17:40-18:30</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>swaka</p>
(28)その他	<p>理学療法士として医療機関に勤務した経験から, 理学療法やリハビリテーションについて経験を踏まえた事例の話を組み入れ, グループ演習での事例について指導している。</p>

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	36
(2)区分番号	36
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	リハビリテーション医学演習 (Seminar of Rehabilitation Medicine)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8 時限
(10)担当教員 (所 属)	高見彰淑
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベ ル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○各種の障害や疾患に対して、理学療法・作業療法を施行する際の基本と なるリハビリテーションに関する医学的知識を修得する(見通す力) ○疾患や障害の最新情報の調べ方、まとめ方を学び、わかりやすく発表で きることで学識を高める(解決していく力) ○文献探索方法、記載方法を学び実施できる(学び続ける力)
(15)授業の概要	リハビリテーション医学の概念、障害の病態生理、各種疾患のリハビリテ ーションについて学ぶ。 疾患や症状について調査能力を身につける。 プレゼンテーション経験からその技術に触れる。
(16)授業の内容予 定	第1回：脳血管障害 (10/7) 第2回：高次脳機能障害 (10/21) 第3回：認知症・脳賦活 (10/29) 第4回：摂食・嚥下障害について (11/6) 第5回：排尿障害 (11/11) 第6回：脊髄損傷 (11/18) 第7回：悪性腫瘍(癌) (11/25) 第8回：切断と義肢 (12/2) 第9回：筋骨格系障害 (RAなど) (12/9) 第10回：循環器疾患(心電図のみかた) (12/16) 第11回：呼吸器疾患等 (12/23) 第12回：(慢性)疼痛 (1/6) 第13回：神経系障害学合同事例紹介1 (1/15) 第14回：神経系障害学合同事例紹介2 (1/20) 第15回：学習状況の振り返りとまとめ、および期末試験 (1/27) 第16回：総合試験 (2/3) このうち13-14回の発表は5班×2実施予定 30分ずつ
(17)準備学習 (予 習・復習) 等の内 容	授業プリントの復習だけではなく、各回の授業内容部分を教科書、ジャー ナル、実務経験の教員に訊くなどして予習する。 小テストを通じ復習を行う。
	人間医工学関連 (医学)

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	千田富義、高見彰淑編集 リハ実践テクニックー脳卒中ー改訂第3版 メジカルビュー社
(21)参考文献	落合慈之監修 リハビリテーションビジュアルブック 学研
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加度・小テスト10%および発表（事前協議含む）30%、筆記試験60%の結果により評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義および演習 演習は、神経系障害学演習との合同により、各専攻2名計4-5名を1班とする10班構成にて行う。 各班にて1疾患・障害を選択し、最新の疾患概念、疫学、診断、治療、リハビリテーションを調べ資料を作り発表する。具体的事例を設定し、症状の経過や進行経過もフォローしたうえで、配付資料を作成すること。
(25)留意点・予備知識	発表内容は11月後半から12月中に担当教員を訪問し、事前チェックを2回以上受けること
(26)オフィスアワー	基本的に随時可能。ただし、事前連絡が原則。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	高見a-takami 高見彰淑研究室（C棟3階）
(28)その他	実務経験のある教員が、臨床経験を活かし説明します。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	37
(2)区分番号	37
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	研究方法論演習（精神障害分野）（Seminar of Resaerch Method (Mental Disorders)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員（所属）	○和田一丸，小山内隆生，加藤拓彦，田中 真，澄川幸志
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○4年生の精神科分野の卒業研究に必要なデータの集め方や解析の仕方，文献の探し方，読み方について修得する（見通す力，解決する力，学び続ける力）
(15)授業の概要	精神科グループの卒業研究について解説するとともに，文献の探し方，読み方について習得し，卒論のテーマを決める
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション，卒論で用いる統計，文献検索 (小山内) 2. 研究デザインその1. 質的研究 (加藤) 3. 研究デザインその2. 量的研究 (田中) 4. 研究デザインその3. 比較の質と交絡の予防 (澄川) 5. 研究デザインその4. 倫理 (和田) 6. 卒論テーマの検討 (全教員) 7. 卒論テーマの検討 (全教員) 8. 卒論テーマの検討 (全教員) 9. 卒論テーマの検討 (全教員) 10. 卒論テーマの検討 (全教員) 11. 卒論テーマの検討 (全教員) 12. 卒論テーマの検討 (全教員) 13. 卒論テーマの検討 (全教員) 14. 卒論テーマの検討 (全教員) 15. まとめ (全教員)
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	課題を前もって調べておくこと 前年度の「卒業研究集録」をよく読み，それをヒントに卒論のテーマを考えること 発表時の討論をもとに卒業研究計画書を作成する
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	過去の「弘前大学医学部保健学科作業療法学専攻卒業研究集録」
(21)参考文献	作業療法学専攻卒業論文集 日本作業療法士協会「作業療法」
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は発表により到達目標の達成度の判定を行い，以下の基準で加減点する 授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない ・授業中の学習意欲に欠ける態度等については減点する ・課題レポートは期限までに提出することを原則とし，期限後1日以内の提出は10点の減点，それ以降は未提出として扱う
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	発表・討論中心
(25)留意点・予備知識	統計に関する知識を有していることが望ましい
(26)オフィスアワー	金曜日9：00～12:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	和田：kw@hirosaki-u.ac.jp 小山内：osanai@hirosaki-u.ac.jp 加藤：takuhiko@hirosaki-u.ac.jp 田中：mtanaka@hirosaki-u.ac.jp

	澄川 : ot_sumi@hirosaki-u.ac.jp (@を半角に変換して使用してください)
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	38
(2)区分番号	38
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	作業分析学実習 (Practice of Occupational Analysis)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5～7 時限
(10)担当教員(所属)	上谷英史
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	作業分析を実際に行うことで作業の治療的特性を理解し、対象者に対する評価・治療に活用できる技能を習得すること(見通す力、解決する力)
(15)授業の概要	作業分析を通して対象者に求められる機能と能力を理解し評価、治療に役立てる知識を得る。
(16)授業の内容予定	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回から第13回：実習（4つの課題について3回ずつ実習を行う。） 課題1 物体や道具の操作能力（速度と正確さ）に関連する因子の実習 課題2 身体と空間へのリーチ（手の位置、向き、方向） 課題3 食事動作にける作業性条件 課題4 起き上がり動作の種類と操作の流れ、運動軸と運動力の変化</p> <p>第14回：発表 第15回：発表</p> <p>それぞれの課題をレポートとして提出する。 最後に行った課題は、発表を行う。</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習は、今までの講義の資料および教科書の該当するページに目を通し理解すること。また、実習課題の結果を予測しておくこと。どのように結果をまとめたらよいか検討しておくこと。</p> <p>復習は、この課題の結果を対象者に対してどのように利用可能か考察すること。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	基礎作業学：日本作業療法士協会編
(21)参考文献	特になし
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度。単なる出席回数ではない。評価全体の30%） 期末評価（期末発表。評価全体の70%） 上記を合算して最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	グループに分かれて、与えられた課題のデータを収集し、解析することから作業の特性の分析方法を理解し、その知識を治療に役立てる方法を考察する。
(25)留意点・予備知識	今まで受講した作業療法に関する知識を復習しておくこと 質問やグループでの話し合いを通して、積極的に知識の獲得、整理を行うこと。
(26)オフィスアワー	(質問に関する連絡先等) D-4-2教員研究室（上谷） (オフィスアワー) 月曜日：16:00～17:00 火曜日：16:00～17:00 水曜日：13:00～17:00 木曜日：16:00～17:00 金曜日：16:00～17:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(E-mailアドレス) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	39
(2)区分番号	39
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	研究方法論演習（基礎分野）（Seminar of Research Method (Basic)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員（所属）	○山田順子，小枝周平，佐藤ちひろ
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○作業療法士として研究を行うために必要な研究方法（文献の探し方・読み方，データの集め方，基本的な解析の方法）を習得する（解決する力） ○研究テーマに関する情報を収集し，データの検討，発表を行うなかで，知識の習得およびプレゼンテーション方法を習得する（解決する力）
(15)授業の概要	研究テーマに関する文献を収集し，授業担当教員の指導のもと文献抄読を行う 研究テーマに関する担当教員とのディスカッションを行う 研究テーマに関するプレゼンテーションを行う
(16)授業の内容予定	本演習は前半に文献抄読，後半に研究構想およびその発表で構成されている 各回の内容は以下の通りである <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、文献抄読を行う論文の検索・決定(山田、小枝、佐藤) 2. 文献抄読(山田、小枝、佐藤) 3. 文献抄読(山田、小枝、佐藤) 4. 文献抄読(山田、小枝、佐藤) 5. 文献抄読(山田、小枝、佐藤) 6. 文献抄読(山田、小枝、佐藤) 7. 文献抄読(山田、小枝、佐藤) 8. 研究構想(山田、小枝、佐藤) 9. 研究構想(山田、小枝、佐藤) 10. 研究構想(山田、小枝、佐藤) 11. 研究構想(山田、小枝、佐藤) 12. 研究構想(山田、小枝、佐藤) 13. 卒論テーマに関する発表(山田、小枝、佐藤) 14. 卒論テーマに関する発表(山田、小枝、佐藤) 15. 卒論テーマに関する発表(山田、小枝、佐藤) <p>※各担当教員や研究テーマの進行状態などによって内容や予定が異なる場合があります</p> <p>※研究構想については各担当教員と相談しながら実施すること</p>

	※文献抄読に用いる文献は、自分で検索し、発表内容について担当教員の確認を得た上で発表すること
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	予習: 課題について前もって調べ、提示された課題を実施すること 復習: ディスカッションの中で指摘された事項について調べ、まとめておくこと (予習、復習は最低でも各1時間程度行う必要があります)
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連（医学）
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	発表担当学生が準備する発表資料 ※担当学生は発表資料（パワーポイント）およびレジメ（ワード）を準備すること
(21)参考文献	山田孝（編集）：作業療法研究法（標準作業療法学 専門分野）：医学書院
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（演習への参加度 単なる出席回数ではない 評価全体の40%） プレゼン評価（プレゼンテーションの内容、理解度について担当教員が評価します 評価全体の60%） 上記を合算して成績評価を行います
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習形式 文献抄読は20分程度で担当学生が内容を発表、その後全員でディスカッションを行います 各回2-3本の論文を抄読する予定です 研究構想は、各担当学生と指導教員が研究テーマについてディスカッションを行います 研究テーマ決定に必要な論文を検索し、まとめていきます
(25)留意点・予備知識	授業中の学習意欲に欠ける態度等については大きく減点する統計に関する知識を有しているのが望ましい
(26)オフィスアワー	山田: 随時 メールなどで事前に連絡してください 小枝: 毎週水曜日9: 00~17: 00 ※そのほかの日程は、随時できるだけ事前に連絡をしてください 佐藤: 9: 00~17: 00 ※随時、できるだけ事前に連絡をしてください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山田 iyamada@hirosaki-u.ac.jp 小枝 ot_koeda@hirosaki-u.ac.jp 佐藤 ot_sato@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	相談や資料印刷などが直前にならないように時間に余裕をもって行動すること

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	40
(2)区分番号	40
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	研究方法論演習（身体障害分野）（Seminar of Research Method (Disabled Persons)）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員（所属）	○平川裕一，上谷英史
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○作業療法上の命題について，検討，発表，討論を反復し，その力を習得する（見通す力，解決していく力，学び続ける力） ○（作業療法士として）研究を行うために必要な研究方法（文献抄読，データ収集・解析）や倫理的配慮について理解する（解決する力）
(15)授業の概要	各指導教員の研究内容の紹介，文献抄読，発表，口頭試問を通し，卒業研究テーマを検討する。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション（平川，上谷） 第2回～第15回：研究内容紹介，文献抄読，発表，討論，口頭試問，卒業研究テーマの検討，その他（平川，上谷）
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各指導教員より指定あり ※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連（医学）
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	各指導教員より指定あり
(21)参考文献	各指導教員より指定あり
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（討論への参加度，レポート，発表，口頭試問など）：100%

(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	課題についての発表，討論，口頭試問を中心に進めます．
(25)留意点・予備知識	疑問はそのままにせず，質問や自己学習で解決してください．積極的に参加してください．
(26)オフィスアワー	随時 D-4-1平川研究室 D-4-2上谷研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(平川) yhira@hirosaki-u.ac.jp (上谷) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし，事例を提示しながら授業を行います．

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	41
(2)区分番号	41
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体形態学実習 (Practice of Human Morphology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5～7 時限, 木曜日 7～9 時限
(10)担当教員(所属)	○敦賀英知, 石川大瑛
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○人体を構成する器官系(運動器、消化・呼吸器、泌尿・生殖器、内分泌器、感覚器、心臓と脈管・リンパ、中枢神経、末梢神経)の位置的關係と役割、それらを構成する個々の器官の名称・形態と役割、相互の位置的關係を理解する(解決する力)
(15)授業の概要	解剖学実習体を実際に解剖して、人体構造の複雑で精緻な3次元的配置を学び、また医療人としての人格の陶冶に励みます。中枢神経系を描写して、それらの構造と役割を学び、組織プレパラートを検鏡・描写して、組織の構造と働きを学びます。
(16)授業の内容予定	本授業科目は、2年次後期週2回の開講で、火曜日5-6-7時限に加え、木曜日7-8-9時限にも授業があるので、注意すること。 ガイダンス-----実習の心構え・注意事項・席次など (実習用具・教材は事前に準備する) 1回-----実習に当たって、体幹・四肢前面の剥皮と皮神経 2回-----頸神経叢皮枝、肋間神経の皮枝、大腿の伸筋 3回-----胸筋神経、腹直筋鞘、大腿の血管・神経 4回-----前腕と下腿前面の筋・神経・血管 5回-----体幹・頭部・四肢後面の剥皮 6回-----浅背筋群と支配神経、殿筋群と坐骨神経 7回-----脊髓神経後枝、梨状筋、大腿屈筋群 8回-----鎖骨切除、頸動脈鞘、鼠径管、下肢の伸筋支帯 9回-----腕神経叢、前胸壁の切開 10回-----固有背筋、四肢の後面、上肢帯、膝窩 11回-----試験、 後頭下筋群、上肢・下肢の後面、足底浅層 12回-----胸部内臓、開腹と腹部内臓、手掌腱膜 13回-----心臓内腔と刺激伝導系、気管支樹、腹部内臓の血管・神経

	<p>14回-----上・後縦隔、肝臓遊離・腹部内臓摘出 15回-----上肢の離断、腹膜後器官(腹部内臓の解剖) 16回-----横隔膜と胸部・腹部内臓(復元)、腰神経叢、下肢の分離 17回-----脊柱管開放と脊髄、脳硬膜と脳神経、頭部離断 18回-----咽頭後面、表情筋と顔面神経、骨盤の分離、会陰、後胸壁 19回-----下顎管開放と顎関節、外陰部の剥皮、骨盤内臓と骨盤切半 20回-----側頭下窩と下顎神経・外頸動脈、骨盤内臓と骨盤隔膜 21回-----舌と喉頭、後頭蓋窩、骨盤内臓と腰仙骨神経叢 22回-----外耳・中耳・内耳、内臓のまとめ 23回-----頭蓋底、上肢の筋と関節 24回-----四肢筋の神経・血管支配、 25回-----鼻腔・副鼻腔、眼窩・眼球、下肢の筋と関節 26回-----試験 頭部の復習、四肢の筋・関節と靭帯 27回-----実習の総まとめ、(納棺)、整理・清掃、器具点検、献花 28回-----中枢神経系(大脳・小脳・脳幹・脊髄)の外形・脳神経と血管 29回-----中枢神経系(大脳・小脳・脳幹・脊髄)の断面と伝導路・役割 30回-----皮膚・運動器・血液の組織学実習 31回-----内臓の組織学実習 32回-----試験</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	<p>当日の担当部位について、予め配布プリント、ネッターの解剖学図譜、参考文献で予習し、どのような作業を行い、何を理解するかを明確にし、それらをノートの左欄に記述します。脳実習、組織学実習でも、配布プリントの構造物の名称について、事前に教科書、あるいは附属図書館医学部分館で関連の専門書を借用して、それらの構造と役割を調べます。実習後に、構造物の理解に役立つ知識、模式図(シェーマ)、不明な箇所、今後理解しなければいけない重要事項をまとめ、知識の整理を行います。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	<p>生体の構造と機能関連</p>
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	<p>1年時の人体形態学の教科書を用いる。</p>
(21)参考文献	<p>河西達夫：解剖学実習アトラス、相磯貞和監訳：ネッター解剖学図譜、井上貴央監訳：カラー人体解剖学、森 於菟ら：分担解剖学1、千葉正司：線描人体解剖学、千葉正司：線描骨学実習 分担解剖学2・3(附属図書館医学部分館) Clemente CD: Anatomy(附属図書館医学部分館) 坂井・大谷ら監訳：プロメテウス解剖学アトラス(附属図書館医学部分館) 正村和彦ら：神経解剖学講義(附属図書館医学部分館) 杉本・宝谷訳：脳・脊髄カラーアトラス 3巻(附属図書館医学部分館) ラングマン発生学(附属図書館医学部分館) 山田英智監訳：図解解剖学事典(附属図書館医学部分館) 千葉正司：描画による解剖記録(附属図書館医学部分館) 千葉正司：実習人体カラーアトラス(全2巻)(附属図書館医学部分館)</p>
	<p>成績評価は、出欠状況と実習態度(20%)、試験(80%)により評価します。一定のレベル(60%)に達しなければ不合格、再履修となります。</p>

(22)成績評価方法及び採点基準	
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	配布プリント・教科書による当日の実習講義が終了後、黙祷し、目的の構造物を隣接器官との関係にも注意しながら詳細・丁寧に剖出します。剖出所見を互いに伝達・共有し、最後に復習をします。
(25)留意点・予備知識	<p>実習回数も多く解剖時間も長いので、体力・気力を充実させ、健康管理に留意して下さい。</p> <p>夏季休暇中に十分な予習を行ってください。実習では、予習が大事で、目的を持って実習に望んで下さい。実習に先立って、9月下旬に、ガイダンスを実施して、実習の心構えと用具などの点検を行います。解剖用具などは慎重に取り扱ってください。</p> <p>御遺体は、その崇高な志を敬い、ご遺族に感謝の誠を捧げ、礼意を失わないように丁寧に接して下さい。弘前大学白菊会総会に協力し、翌年開催の医学部慰霊祭には全員参加して下さい。</p> <p>部外者は入室させないで下さい。</p>
(26)オフィスアワー	(水、木) 11:30~12:30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tsuru@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	42
(2)区分番号	42
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神障害作業療法学実習
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 2～4 時限
(10)担当教員(所属)	○小山内隆生, 加藤拓彦, 田中 真
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レ)	レベル3

ベル)	
(13) 対応 する CP/ DP	CP・DP 2 解決していく力
(14) 授業 とし ての 具体 的到 達目 標	○精神障害者の生活障害改善のアプローチ方法を修得する(解決する力) ○精神科作業療法に必要なアクティビティを治療として使う方法を修得する(解決する力)
(15) 授業 の概 要	精神障害患者に対する面接、検査等に必要な実技について実習することにより評価に必要な技能を習得させ、かつ疾患および障害についての理解を深めさせる また評価結果や行動の観察、及び関係者・カルテからの情報収集等により担当患者の問題点を把握し治療方針・プログラムを立案する過程を実習させる
(16) 授業 の内 容予 定	第1回 オリエンテーション (小山内・田中) 第2回 心理社会的評価 (REHAB) (小山内・田中) 第3回 心理社会的評価 (LASMI) (小山内・田中) 第4回 心理社会的評価 (who-QOL) (小山内・田中) 第5回 心理社会的評価 (S-QOL) (小山内・田中) 第6回 精神機能評価 (WAIS) (小山内・田中) 第7回 精神機能評価 (BACKS) (小山内・田中) 第8回 心理評価 (文章完成法、PFスタディ) (小山内・田中) 第9回 面接実習 (1) (小山内・田中) 第10回 面接実習 (2) (小山内・田中) 第11回 面接実習 (3) (小山内・田中) 第12回 レクリエーションの計画と運営 (1) (加藤、田中) 第13回 レクリエーションの計画と運営 (2) (加藤、田中) 第14回 レクリエーションの計画と運営 (3) (加藤、田中) 第15回 レクリエーションの計画と運営 (4) (加藤、田中)
(17) 準備 学習 (予 習・ 復 習) 等の 内容	課題を前もって調べておくこと。 実習した内容について、レポートを作成すること
(18) 学問 分野 1(主 学問 分野)	健康科学関連

(18) 学問 分野 2(副 学問 分野)	心理学関連
(18) 学問 分野 3(副 学問 分野)	社会医学関連
(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	実務教員
(20) 教 材・ 教科 書	実習の手引きを第1回の講義で配布する
(21) 参 考 文 献	「作業療法評価学、医学書院
(22) 成 績 評 価 方 法 及 び 採 点 基 準	実習の評価対象は、出席とレポートの両方の提出を行ったものとする 欠席は6回以上の場合には未履修扱いとする 評価は課題についてのレポート提出60点，教員の評価40点の合計100点の総合評価とする
(23) 授 業 形 式	実習
(24) 授 業 形 態・	5グループに分け，実習それぞれのグループに課題を与える

授業方法	
(25) 留意点・予備知識	予習を十分に行うこと
(26) オフィスアワー	作業療法技術学研究室 水曜日: 午前9時から正午まで 金曜日: 午前9時から午後6時まで
(27)E メールアドレス・HPアドレス	小山内: osanai@hirosaki-u.ac.jp 加藤 : takuhi.ko@hirosaki-u.ac.jp 田中 : tanakam@hirosaki-u.ac.jp 教育者総覧 小山内: http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&di d=1988&qj d=3120&vi d=718&ri d=260&Head=237&hi d=54086&si d=n&rev=1&ssi d= 加藤: http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&di d=1988&qj d=3120&vi d=718&ri d=255&Head=237&hi d=54086&si d=n&rev=1&ssi d= 田中: http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&di d=1988&qj d=3120&vi d=718&ri d=494&Head=454&hi d=55662&si d=n&rev=1&ssi d=
(28) その他	連絡先: 作業療法技術学研究室: 39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	43
(2)区分番号	43
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	精神能力障害作業療法学演習 (Seminar of Occupational Therapy Theory and Process for Mental Disorders)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○加藤拓彦, 田中 真
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○精神能力障害作業療法学で学んだ精神障害者に対する治療・訓練の内容を症例を通して機能・構造の障害を理解する (見通す力) ○活動制限を理解する (見通す力) ○参加制約を理解する (見通す力) ○問題点の整理方法を修得する (解決する力) ○治療計画の方法を修得する (解決する力)
(15)授業の概要	授業開始時のオリエンテーションにて学習課題を提示する。具体的症例研究であり、文献調査や作業研究等により各症例の問題点を整理し、治療目標及び治療計画を計画立案し、その内容を発表する。発表を基にした質疑応答により精神障害者に対する治療・訓練についての理解を深める。
(16)授業の内容 予定	クラスを4グループに分け、概ね各週1グループ (1症例) の発表とする。 第1回：オリエンテーション (加藤) 第2回～第15回：各症例ごとの発表 (加藤, 田中)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習では、提示された症例の理解のために、精神医学、精神機能障害作業療法学、精神能力障害作業療法学の講義資料、教科書及び参考書等を参考に症例の疾患の典型例と比較すること。 復習では、毎回の授業にて展開される質疑応答について、その内容の理解に努めること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	定めなし
(21)参考文献	参考書：精神医学、精神機能障害作業療法学、精神能力障害作業療法学の講義資料、教科書及び参考書等 精神能力障害作業療法学で教科書指定：精神疾患の理解と精神科作業療法（中央法規） 図書館で閲覧可能なジャーナル：作業療法、作業療法ジャーナル、精神認知とOT
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は参加態度、レポート及び発表により到達目標の達成度の判定を行い、以下の基準で加減点する。 ・授業への参加態度（20%）：授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない。また、グループで行う演習であることから、協調性のある言動は加点し、協調性に欠ける言動、学習意欲に欠ける態度等については減点する。 ・発表資料作成（30%）：レポートは期限までに提出することを原則とし、期限後1日以内の提出は10点の減点、それ以降は未提出として扱う。 ・発表と質疑応答（30%）：発表及び質疑応答については、それを行うことを原則とし、論理性や妥当性について評価し加減点を行う。 ・最終レポート（20%） 上記の合計点が6割以上の者に単位を付与する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	課題ごとの発表。 セミナー形式とする。
(25)留意点・予備知識	精神医学、精神機能障害作業療法学、精神能力障害作業療法学の復習を行うこと。
(26)オフィスアワー	作業療法技術学研究室 水曜日：午前9時から正午まで 金曜日：午前9時から午後6時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	加藤：takuhiko@hirosaki-u.ac.jp 田中：tanakam@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	連絡先：作業療法技術学研究室：39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	44
(2)区分番号	44
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	基礎作業学演習
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	上谷英史
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○基礎作業学で学んだことを活用した作業に関する知識の整理と活用について修得する(見通す力, 解決する力) ○生活行為向上マネジメント(MTDLP)について理解する(見通す力, 解決する力)
(15)授業の概要	発表課題をまとめ発表すること、発表を聞いてその内容に関しての疑問を持ち、それに関する自分の意見をまとめ発言することを通して、作業の捉え方を深める。
(16)授業の内容予 定	第1回 授業の進め方の説明 第2回 生活行為向上マネジメント概論 第3回 生活行為向上マネジメント演習 第4回 生活行為向上マネジメント演習 第5回 課題発表 第6回 課題発表 第7回 課題発表 第8回 課題発表 第9回 課題発表 第10回 課題発表 第11回 課題発表 第12回 課題発表 第13回 課題発表 第14回 課題発表 第15回 課題発表
(17)準備学習(予 習・復習)等の内 容	予習は、今までの講義の資料および教科書の該当するページに目を通し理解すること。そこから課題をスライドにまとめ、他者が理解しやすい発表を行なえるようにすること。また、別の課題に対する質問を考えること。復習は、授業中に展開された発表内容及び質疑応答を理解すること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
	-

(18)学問分野 2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	基礎作業学、日本作業療法士協会編
(21)参考文献	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 作業療法マニュアル57生活行為向上マネジメント
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（授業への参加度。単なる出席回数ではない。課題発表。課題発表 に対する質疑応答。評価全体の80%） 期末評価（レポートによる理解度の確認。評価全体の20%） 上記を合算して最終的な成績評価を行います。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授 業方法	講義、課題に対する発表と質疑応答
(25)留意点・予備 知識	課題の準備は、3週間以上前から行い、質問には2週前に来ること。
(26)オフィスア ワ ー	(質問に関する連絡先等) D-4-2教員研究室（上谷） (オフィスアワー) 月曜日：16:00～17:00 火曜日：16:00～17:00 水曜日：13:00～17:00 木曜日：16:00～17:00 金曜日：16:00～17:00
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	(E-mailアドレス) kamihide@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	45
(2)区分番号	45
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	作業療法英語
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員 (所属)	小山内隆生
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○リハビリテーション分野をはじめとする医療分野の英語を理解する(解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概 要	本講義は、リハビリテーションの現場で使用される用語の英語について理解を深めるものです この授業を通して、海外でリハビリテーションの専門職として働くときのコミュニケーション能力の向上を図ります
(16)授業の内 容予定	1. Higher Brain Dysfunction (高次脳機能障害) 2. Parkinson's Disease (パーキンソン病) 3. Osteoporosis (骨粗鬆症) 4. Cerebral Apoplexy (Stroke) (脳卒中) 5. Cardiovascular Disease (循環器疾患) 6. Diabetes Mellitus (糖尿病) 7. Respiratory Disease (呼吸器疾患) 8. Chronic Rheumatoid Arthritis (慢性関節リウマチ) 9. Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) 10. Spinal Cord Injury (脊髄損傷) 11. Cerebral Palsy (脳性麻痺) 12. Case Study (事例研究) 13. 文献抄読 14. 文献抄読 15. 文献抄読 16. 試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	教科書 (The Art of Healing) の翻訳と設問の解答を予習しておくこと 授業で学んだ表現や専門用語の英語表記について復習すること
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	The Art of Healing(南雲堂)
(21)参考文献	British Journal of Occupational Therapy American Journal of Occupational Therapy
(22)成績評価 方法及び採点基 準	平常評価 (授業への参加度、毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく、単なる出席回数ではない、評価全体の40%) 期末評価 (15回の授業終了後に、レポートを課す、評価全体の60%) 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	教科書 (The Art of Healing) の翻訳と設問の解答を主として行う また、教科書終了後は、American Journal of Occupational Therapy からの論文を翻訳し、要旨をまとめる
(25)留意点・ 予備知識	リハビリテーションで使う英語を予習しておくこと
(26)オフィス アワー	毎週火曜日9:00-17:00
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	osanai@hirosaki-u.ac.jp http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2337&head=&hid=&sid=n&rev=&ssid=&fvid=18701&text=%8F%AC%8E%52%93%E0%97%B2%90%B6&cal= その他
(28)その他	予習しておくこと

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	46
(2)区分番号	46
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	救急・蘇生医学 (Emergency and Resuscitative Medicine)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	高橋 徹
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○医療従事者として必要な救急蘇生の概念を理解する(見通す力) ○救急医療の対象となる代表的疾患の病態, 診断, 治療・対処, 予防を理解する(見通す力) ○病院内外で一次救命処置を実践できる(解決する力)
(15)授業の概要	○救急・蘇生医学の概念、システム、現状について学びます。 ○代表的な救急疾患について病態、診断、治療・対処、予防に必要な知識・技術を学びます。 ○病院内外で一次救命処置を積極的に行うことができること(救命処置に躊躇しない)を目指します。
(16)授業の内容予定	第1回: 救急・蘇生医学総論(救急医療の概念、歴史、現状、トリアージ、脳死と臓器移植) 第2回: 救命処置(一次救命処置) 第3回: 救命処置(二次救命処置) 第4回: 救命処置(小児・新生児) 第5回: 内因性救急疾患 第6回: 外因性救急疾患 第7回: 実習(一次救命処置) 第8回: 学習状況の確認(試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	次回授業の資料をあらかじめ配付するので、参考に予習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜プリントを配付。
	授業中、適宜紹介します。

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、授業中の質問への回答など）：20% 期末評価（期末試験）：80% 合計で60%以上を合格とする。なお、講義を3回以上欠席した場合は期末試験受験の資格は得られない。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	プリント・スライド・ビデオ等を使用した講義が中心ですが、患者シミュレーター、医療器具を使用した実技訓練もあります。
(25)留意点・予備知識	疑問点は積極的に質問してください。
(26)オフィスアワー	授業中に指示します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ttaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	47
(2)区分番号	47
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体機能学演習 (Seminar of Human Body Physiology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6 時限
(10)担当教員(所属)	山田順子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前期の講義で習った生理現象について詳しく調べて聴衆に説明する方法を習得する(見通す力、解決していく力) ○ 人の発表を聞き疑問点などを質問できるようにする(学び続ける力)

(15) 授業 の概 要	日常生活で体験する生理的現象を再体験し、発生機序を調べ、発表する。これを通して、問題を提起し、その原因を探り、研究の結果を聴衆に理解させるという一連の過程を練習する。基礎的および専門的知識を身につけるトレーニングである。
(16) 授業 の内 容予 定	<p>各班で演習のテーマを選択し30分で講義を行う（各班6～8名で構成、各自5～6分担当して講義する。他の班のメンバーが質問）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループおよびテーマ選択。発表課題決定 2) 細胞 3) 呼吸器 4) 循環器 5) 血液 6) 消化器 7) 筋・運動 8) 神経 9) 脳 10) 感覚器 11) 泌尿器 12) 内分泌 13) 生殖、妊娠分娩 14) 栄養 15) 代謝
(17) 準備 学習 (予 習・ 復 習) 等の 内容	各人が演習テーマを参考に生理的現象を調べ、説明できるようにまとめる
(18) 学問 分野 1(主 学問 分野)	生体の構造と機能関連
(18) 学問 分野 2(副 学問 分野)	-
(18) 学問 分野 3(副 学問 分野)	-
(19) 実務 経験 のある 教員に よる 授業 科目 につ いて	-
(20) 教 材・ 教科 書	なし

(21) 参考 文献	コメディカル専門基礎科目シリーズ生理開く（理工図書） スタンダード生理学（文光堂）、標準生理学（医学書院） など
(22) 成績 評価 方法 及び 採点 基準	発表、質問の行い方、内容、応答などを評価する（発表1回20点、質問1回5点）
(23) 授業 形式	演習
(24) 授業 形 態・ 授業 方法	第1回目にガイダンスを行いグループ分け（専攻毎5名一班）、テーマを決める。 発表当日はスケジュールに従って行い、発表、質問内容共採点する。
(25) 留意 点・ 予備 知識	積極的に質問すること（質問に関しても採点します）。 プレゼンテーションはできるだけ原稿を使わず行う。
(26) オフ イス アフ ー	随時、できるだけ事前に連絡をしてください。
(27) E メー ルア ドレ ス・ HPア ドレ ス	ivamada@hirosakai-u.ac.jp
(28) その 他	http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2285&head=&hid=&sid=n&rev=&ssid=&fvid=18701&text=%8E%52%93%63+%8F%87%8E%71+&cal=

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	48
(2)区分番号	48
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	人体形態学演習 (Seminar of Human Body Anatomy)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	敦賀英知
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○末梢神経(脳・脊髄神経と自律神経)・中枢神経の構造と機能、感覚器(目・鼻・耳・舌)の構造と役割、心臓・動静脈・リンパ系の構造と働き、消化・呼吸器並びに泌尿・生殖器の外形・内景・働きと血管分布、骨盤、ヒトの個体発生を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	人体の構造と機能について、人体形態学(解剖学)の基礎を理解し、専門科目の基礎を培います。
(16)授業の内容 予定	この演習では末梢神経(脳・脊髄神経と自律神経)・中枢神経の構造と機能、感覚器(目・鼻・耳・舌)の構造と役割、心臓・動静脈・リンパ系の構造と働き、消化・呼吸器並びに泌尿・生殖器の外形・内景・働きと血管分布について理解を深めます。 1回-----脊髄神経、脳の外形と断面 2回-----脳神経 3回-----伝導路、自律神経系 4回-----感覚器 5回-----内分泌系・血液 6回-----心臓と血管・血液循環 7回-----動脈・静脈 8回-----リンパ系 9回-----試験 (神経系、血管系) 10回-----消化器系 11回-----呼吸器系 12回-----泌尿器系、生殖器系 13回-----泌尿器系、生殖器系 14回-----試験 ヒトの発生 15回-----組織学実習 16回-----試験 (消化呼吸器系、泌尿器形)
	当日の授業担当部分を教科書で予習します。 当日の授業を復習し、理解できない点をまとめ、次回に質問します。 組織学実習では、予め附属図書館医学部分館から組織学の図書を利用し、配

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	布プリントを参考にして、担当部位の名称と内容を確認します。復習では、当日の理解を深めます。
(18)学問分野 1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	前期の人体形態学と同じ。
(21)参考文献	前期の人体形態学と同じ。
(22)成績評価方法 及び採点基準	成績評価は、出欠状況と受講態度（10%）、試験（90%）により評価します。一定のレベル（60%）に達しなければ不合格、再履修となります。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	講義が主体で、テーマ別発表会なども行います。
(25)留意点・予 備知識	2年では人体形態学実習を行うので、解剖学の知識を十分身につけておく必要があります。実習に備えて十分な予習を行ってください。また実習に備えて、白衣や実習用具も準備します。 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(26)オフィスア ワー	(水、木) 11:30~12:30
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	tsuru@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	49
(2)区分番号	49
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	運動学 (Kinesiology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	對馬栄輝
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	関節運動の面と神経支配の面から、人間の運動のしくみについて理解する。 筋肉の起始停止と走行を理解したうえで、個々の部位の運動について理解する。
(15)授業の概要	人体の運動の機構を多方面からアプローチして理解する。 理学・作業療法専門科目に対する基礎となる科目であることを認識する。
(16)授業の内容予定	第1回：運動学とは？ 第2回：休講 第3回：生体力学の基礎① 第4回：生体力学の基礎② 第5回：筋収縮の機構と性質、筋の作用 第6回：肩甲帯の筋群と運動 第7回：肩関節の筋群と運動① 第8回：肩関節の筋群と運動② 第9回：肘・前腕・手の筋群と運動 第10回：骨盤帯・股関節の筋群と運動 第11回：膝の筋群と運動 第12回：足関節の筋群と運動 第13回：体幹の筋群と運動 第14回：歩行分析 第15回：学習状況の確認（試験含む）と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習]各講義の前に、該当する教科書の部分を予習しておく。 [復習]各講義で説明した筋に関する起始・停止、作用、神経支配を復習しておく。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	「基礎運動学第6版」中村隆一ら編著、医歯薬出版
(21)参考文献	

	カパンディ 関節の生理学 荻島秀男監訳 医歯薬出版 運動器の機能解剖 荻島秀男訳著 医歯薬出版
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加度：20% 期末試験：80% 上記を総合して最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	座学中心となり、スライド映写・資料を使用する。適宜追加資料を配布することがある。
(25)留意点・予備知識	本講義を理解するには、物理学（力学）・解剖学の基礎知識が必要となる。 したがって、該当する基礎知識の復習を必ず行っておくこと。
(26)オフィスアワー	水曜日17：30-18：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	對馬栄輝：pteiki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	50
(2)区分番号	50
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	作業療法評価学実習Ⅰ
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 2～4 時限
(10)担当教員(所属)	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2～3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○身体障害領域の作業療法評価を実施できる(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	これまで学んできた作業療法評価学の理論的背景を基礎として, 具体的評価手法を身につけることを目的とする.
(16)授業の内容予定	<p>1: オリエンテーション, 活動・参加の評価, 身体機能(自律機能)の評価, 口頭試問</p> <p>2: 身体構造(形態, 関節)の評価</p> <p>3: 身体構造(形態, 関節)の評価</p> <p>4: 身体構造(形態, 関節)の評価</p> <p>5: 身体構造(形態, 関節)の評価, 口頭試問</p> <p>6: 身体機能(筋緊張, 反射, 筋力)の評価</p> <p>7: 身体機能(筋緊張, 反射, 筋力)の評価</p> <p>8: 身体機能(筋緊張, 反射, 筋力)の評価, 口頭試問</p> <p>9: 身体機能(随意運動機能, 協調運動)の評価</p> <p>10: 身体機能(随意運動機能, 協調運動)の評価, 口頭試問</p> <p>11: 身体機能(感覚機能, 痛み)の評価</p> <p>12: 身体機能(感覚機能, 痛み)の評価, 口頭試問</p> <p>13: 身体機能(脳神経)の評価</p> <p>14: 身体機能(脳神経)の評価, 口頭試問</p> <p>15: 学習状況の確認(期末試験を含む)</p> <p>16: 期末試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として, 今までの講義の資料, 教科書の該当ページを読んでください.</p> <p>授業内では, 不明な点や疑問点を解決してください.</p> <p>復習として, 講義内容を想起しながら, 講義の資料, 教科書の該当ページをよく読んで理解してください.</p> <p>※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法評価学（医学書院） 作業療法学全書 第4巻 身体障害（協同医書出版社） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） 新・徒手筋力検査法（協同医書出版） 見てわかる医療スタッフのための痰の吸引（学研） 身体障害作業療法学領域の講義時に配布した資料
(21)参考文献	作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学（協同医書出版社） 身体機能作業療法学（医学書院）
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（実技への参加度，口頭試問など）：60% 期末評価（期末試験）：40%
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	身体障害作業療法学領域の講義で学んだ評価方法について，小グループで実技を行います。 疑問はそのままにせず，質問や自己学習で解決してください。 実技はグループ全員で行ってください。 参加していないことが判明した場合には，評価点を無効にします。
(25)留意点・予備知識	実習は，予定表にしたがって行います。実習の内容について，あらかじめ予習してきてください。 実習時のすべてのこと（服装、言動など）は，臨床場面を想定して行ってください。 実習は，3人一組で行います。互いに検査者，被験者を経験してください。 実習は，身体の運動を伴うため，動きやすい服装（ジャージ，セラピストスーツなど）でのぞんでください。運動制限を生じる服装は避けてください。 実習内容については，復習してください。
(26)オフィスアワー	月曜日：9:00～11:30 火曜日：13:00～17:30 木曜日：9:00～10:00 D-4-1平川研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhi ra@hi rosaki -u. ac. jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし，事例を提示しながら授業を行います。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	51
(2)区分番号	51
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	神経系障害学Ⅱ
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	嶋村則人(学内非常勤講師), 浅野研一郎(学内非常勤講師), 奈良岡征都(学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	人間活動の中心である脳の疾患は, 容易に四肢の運動障害や高次脳機能障害などを引き起す。従って, 理学療法や作業療法と密接した分野であることを念頭に置いて理解に努めて欲しい。
(15)授業の概要	脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・先天性奇形などの代表的な脳神経外科学領域の疾患の講義を行う。
(16)授業の内容予定	第1回(H31.12.4): 脳神経外科総論Ⅰ(担当: 嶋村則人) 第2回(H31.12.11): 脳神経外科総論Ⅱ(担当: 嶋村則人) 第3回(H31.12.18): 各論「脳血管障害Ⅰ」(担当: 片山耕輔) 第4回(H31.12.25): 各論「脳血管障害Ⅱ」(担当: 片山耕輔) 第5回(H32.1.8): 各論「脳腫瘍Ⅰ」(担当: 浅野研一郎) 第6回(H32.1.22): 各論「脳腫瘍Ⅱ」(担当: 浅野研一郎) 第7回(H32.1.29): 各論「先天性疾患・頭部外傷・その他」(担当: 浅野研一郎) 第8回(H30.2.5): 学習状況の確認(試験含む)と振り返り(担当: PT専攻教員)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	毎回の授業プリントをきちんと復習する。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	ブレインサイエンス関連
(18)学問分野3(副学問分野)	生体の構造と機能関連
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教科書は使用しない。
(21)参考文献	特に設けないものの、希望があれば紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験を行う。授業の参加度も成績評価に加味する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	資料を配付した上で、スライドを中心に授業を行う。
(25)留意点・予備知識	分からないこと、不明なことがあれば、その場で遠慮をせずに質問すること。
(26)オフィスアワー	その週により大幅に異なるため、脳神経外科学講座受付（39-5115）で確認を。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	（質問に関する連絡先等）医学部脳神経外科学講座受付（39-5115） 医学科の教員による講義のため、以下の保健学科教員（理学療法学専攻）が窓口となり、出席および試験の管理を行う。 疑問点は下記の理学療法学専攻教員に直接確認すること。 ・吉田英樹：312研究室, Tel 39-5975 e-mail : ptyoshi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	52
(2)区分番号	52
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	筋骨格系障害学演習
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8 時限
(10)担当教員(所属)	○對馬栄輝, 尾田 敦, 高橋純平, 澄川幸志
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○解剖学, 生理学, 運動学と関連付けたうえで, 整形外科学疾患の病態と治療法, リハビリテーションを理解する(見通す力) ○整形外科学疾患・筋骨格系障害の疫学, 病態生理, 医学的治療の概念を理解する(解決していく力) ○整形外科学疾患・障害の障害構造(国際生活機能分類), リハビリテーションアプローチについて理解し, 各疾患によっておこる障害の特徴を理解する(学び続ける力)
(15)授業の概要	筋骨格系障害学とは, 整形外科学を基盤とするリハビリテーション医学である。 骨関節疾患・脊髄と末梢神経の疾患や外傷を対象とする理学療法・作業療法のための知識, リハビリテーションの実際を述べる。
(16)授業の内容予定	第1回: 骨折(1)(對馬) 第2回: 骨折(2)(對馬) 第3回: 骨折(3)(對馬) 第4回: 神経疾患, 筋疾患(對馬) 第5回: スポーツ外傷・障害(尾田) 第6回: 骨壊死および骨端症(尾田) 第7回: 脊椎・脊髄の外傷と疾患(1)(尾田) 第8回: 脊椎・脊髄の外傷と疾患(2)(尾田) 第9回: 感染症, 代謝・内分泌疾患, 骨軟部腫瘍(澄川) 第10回: 慢性関節疾患(1)(澄川) 第11回: 慢性関節疾患(2)(澄川) 第12回: 肘関節・前腕の外傷と疾患(高橋) 第13回: 手関節・手指の外傷と疾患(1)(高橋) 第14回: 手関節・手指の外傷と疾患(2)(高橋) 第15回: 学習状況の確認(試験含む)と振り返り(澄川・高橋)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	本講義を理解するには, 解剖学・運動学の基礎知識がないと理解が困難となる。 したがって, 解剖学と運動学に関する基礎知識の復習を必ず行っておくこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
	生体の構造と機能関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	整形外科学テキスト 二瓶隆一・木村哲彦編集 南江堂 ※授業資料（尾田分）はグループウェア等で配信するので、各自ダウンロードして持参すること。
(21)参考文献	「標準整形外科学」石井清一ら監修 医学書院
(22)成績評価方法及び採点基準	● 期末試験 60% ● 授業の参加度 40%
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	座学中心となり、スライド映写・資料を使用する。適宜追加資料を配布する。
(25)留意点・予備知識	本講義を理解するには、解剖学・運動学の基礎知識がないと理解が困難となる。 したがって、解剖学と運動学に関する基礎知識の復習を必ず行っておくこと。
(26)オフィスアワー	水曜日17：30-18：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	對馬栄輝：pteiki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	53
(2)区分番号	53
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神機能障害作業療法学演習 (Seminar of Occupational Therapy Theory and Process for Mental Disorders)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 1～4 時限
(10)担当教員(所属)	小山内隆生
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○精神科作業療法プログラムの立て方について理解する(解決する力)
(15)授業	精神機能障害に対する作業療法について、対象疾患とそのゴールを想定し、必要な評価とプログラム立案について討論を行う

の概要	
(16) 授業の内容予定	<p>1回 オリエンテーション（テーマの説明）</p> <p>2回 リハビリテーションゴールと生活障害（資料収集とまとめ）</p> <p>3回 リハビリテーションゴールと生活障害（発表とディスカッション）</p> <p>4回 仮想症例の作成（資料収集とまとめ）</p> <p>5回 仮想症例の発表（発表とディスカッション）</p> <p>6回 症例に対する作業療法計画立案（資料収集とまとめ）</p> <p>7回 症例に対する作業療法計画立案（発表とディスカッション）</p> <p>8回 振り返り、自己評価</p>
(17) 準備学習（予習・復習）等の内容	<p>各班ごとに課題を前もって調べ解法ををまとめておくこと</p> <p>2年次の精神疾患別作業療法学で用いた「精神疾患の理解と精神科作業療法」をよく読み、それをヒントに解法を考えること</p> <p>場合によっては、精神医学で使用した教科書もつかうこと</p>
(18) 学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18) 学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18) 学問分野3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20) 教材・教科書	授業開始時に配布する
(21) 参考文献	<p>American Journal of Occupational Therapy.</p> <p>Britishi American Journal of Occupational Therapy.</p> <p>作業療法</p> <p>作業療法ジャーナル</p>
(22) 成績評価方法及び採点基準	<p>発表30%、態度（質疑応答を含む）40%、レポート 30%を総合的に判断する</p> <p>発表については3回の発表を総合的に判断する</p>
	演習

(23) 授業 形式	
(24) 授業 形 態・ 授業 方法	調査と発表と討論を中心とした演習
(25) 留意 点・ 予備 知識	予習を十分に行うこと
(26) オフ イス アワ ー	月9:00~12:00 火9:00~12:00 水9:00~12:00 木12:00~17:00 金9:00~12:00
(27)E メー ルア ドレ ス・ HPア ドレ ス	osanai@hirosaki-u.ac.jp http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2337&head=&hid=&sid=n&rev=&ssid=&fvid=18701&text=%8F%AC%8E%52%93%E0%97%B2%90%B6&cal=
(28) その 他	特になし

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	54
(2)区分番号	54
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体病理学 (Pathology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	渡邊 純
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○ 病気の原因や成り立ちを理解する ○ 基本的な医学用語、病名などを理解する
(15)授業の概要	・人体病理学は、人体における病気の基本的概念を学ぶ学問です。 ・総論では、病理学の歴史、概要、病因、物質代謝障害、進行性病変、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍などについて病理学の基本的概念を中心に学ぶ。 ・各論では、各臓器の特徴的な病気の基本的概念を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 1章. 人体病理学の歴史及び概要 第2回 2. 病因論、3. 先天性疾患、遺伝病 第3回 4. 細胞の基本病変、5. 物質代謝障害 第4回 6. 修復、再生 第5回 7. 循環障害 第6回 8. 炎症、感染症 第7回 9. 免疫と免疫異常 第8回 10. 腫瘍 第9回 11. 循環器系の疾患 第10回 12. 呼吸器系の疾患 第11回 13. 消化器系の疾患 第12回 15. 泌尿器系の疾患、16. 生殖器系の疾患 第13回 18. 内分泌系の疾患 第14回 17. 運動器・軟部組織系 第15回 19. 脳・神経系、の疾患 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	正常を理解していないと病気は理解できないので、解剖学、組織学、生理学などを知識を復習して講義に臨むことが望まれる。
(18)学問分野1(主学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中村仁志夫他著, 医療系学生のための病理学, 第4版, 講談社サイエンスティフィク, 2010.
(21)参考文献	なし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 20% 期末評価(期末試験): 80% 上記を合算して最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書とパワーポイント を用いて行う。
(25)留意点・予備知識	病理学総論で学ぶ医学用語は、病気を学ぶ基礎となるので、正しく理解し、記憶すること。
(26)オフィスアワー	平日昼休み(11: 50-12: 40)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	watajun@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	55
(2)区分番号	55
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体障害作業療法治療学 I
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○身体障害領域の作業療法治療の概念を理解する(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	身体障害領域の作業療法治療に必要な知識を学習する.
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> 1: 活動・参加 2: 活動・参加 3: 活動・参加 4: 身体構造(形態, 関節) 5: 身体構造(形態, 関節) 6: 身体機能(運動機能) 7: 身体機能(運動機能) 8: 身体機能(運動機能) 9: 身体機能(感覚機能, 痛み) 10: 身体機能(感覚機能, 痛み) 11: 身体機能(自律機能) 12: 身体機能(自律機能) 13: 身体機能(摂食・嚥下機能, 構音機能, 喀痰吸引) 14: 身体機能(摂食・嚥下機能, 構音機能, 喀痰吸引) 15: 高次脳機能 16: 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習として, 今までの講義の資料, 教科書の該当ページを読んできてください.</p> <p>授業内では, 不明な点や疑問点を解決してください.</p> <p>復習として, 講義内容を想起しながら, 講義の資料, 教科書の該当ページをよく読んで理解してください.</p> <p>※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です.</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	作業療法学全書 第4巻 身体障害 (協同医書出版社) 作業療法評価学 (医学書院) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版) 見てわかる医療スタッフのための痰の吸引 (学研)
(21)参考文献	作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学 (協同医書出版社) 身体機能作業療法学 (医学書院)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (参加度, 小テスト, レポート など) : 40% 期末評価 (期末試験) : 60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を行います。 疑問はそのままにせず, 質問や自己学習で解決してください。 小テストやレポート課題によって理解度を確認します。
(25)留意点・予備知識	受講時点までのすべての科目について, その内容を十分に理解しておいてください。
(26)オフィスアワー	月曜日 : 9:00~11:30 火曜日 : 13:00~17:30 木曜日 : 9:00~10:00 D-4-1平川研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhi ra@hi rosaki -u. ac. jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし, 事例を提示しながら授業を行います。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	56
(2)区分番号	56
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体障害作業療法治療学Ⅱ
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員（所属）	○平川裕一，佐藤ちひろ
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○身体障害領域の疾患における作業療法治療の概念を理解する（見通す力，解決していく力）
(15)授業の概要	身体障害領域の作業療法治療に必要な知識を学習する。
(16)授業の内容予定	<p>1：脳血管疾患（リスク管理）（平川，佐藤）</p> <p>2：脳血管疾患（活動・参加）（平川，佐藤）</p> <p>3：脳血管疾患（精神機能，高次脳機能）（平川，佐藤）</p> <p>4：脳血管疾患（精神機能，高次脳機能）（平川，佐藤）</p> <p>5：脳血管疾患（精神機能，高次脳機能）（平川，佐藤）</p> <p>6：脳血管疾患（身体機能；運動機能）（平川，佐藤）</p> <p>7：脳血管疾患（身体機能；運動機能）（平川，佐藤）</p> <p>8：脳血管疾患（身体機能；運動機能）（平川，佐藤）</p> <p>9：脳血管疾患（身体機能；感覚機能）（平川，佐藤）</p> <p>10：脳血管疾患（身体機能；自律機能）（平川，佐藤）</p> <p>11：脳血管疾患（二次的障害）（平川，佐藤）</p> <p>12：外傷性脳損傷（活動・参加）（平川，佐藤）</p> <p>13：外傷性脳損傷（精神機能，高次脳機能，身体機能）（平川，佐藤）</p> <p>14：パーキンソン病とその関連疾患（平川，佐藤）</p> <p>15：パーキンソン病とその関連疾患（平川，佐藤）</p> <p>16：期末試験（平川，佐藤）</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習として，今までの講義の資料，教科書の該当ページを読んできてください。</p> <p>授業内では，不明な点や疑問点を解決してください。</p> <p>復習として，講義内容を想起しながら，講義の資料，教科書の該当ページをよく読んで理解してください。</p> <p>※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連（医学）
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	作業療法学全書 第4巻 身体障害 (協同医書出版社) 作業療法評価学 (医学書院) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版) 見てわかる医療スタッフのための痰の吸引 (学研)
(21)参考文献	作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学 (協同医書出版社) 身体機能作業療法学 (医学書院)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (参加度, 小テスト, レポート など) : 40% 期末評価 (期末試験) : 60%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を行います。 疑問はそのままにせず, 質問や自己学習で解決してください。 小テストやレポート課題によって理解度を確認します。
(25)留意点・予備知識	受講時点までのすべての科目について, その内容を十分に理解しておいてください。
(26)オフィスアワー	月曜日 : 9:00~11:30 火曜日 : 13:00~17:30 木曜日 : 9:00~10:00 D-4-1平川研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	yhi ra@hi rosaki -u. ac. jp
(28)その他	作業療法士としての実務経験を活かし, 事例を提示しながら授業を行います。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	57
(2)区分番号	57
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	重作業作業療法学実習 (Practice II of Occupational Therapy Skills)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 2～4 時限
(10)担当教員 (所属)	○加藤拓彦, 田中 真
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2～3
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到達 目標	○作業療法で用いられる作業（主として手芸）の体験および技術を修得するとともに、作業遂行要因に関する作業分析を行い、作業の治療的活用について修得する（見通す力） ○作業活動(activity)の治療的視点を理解する（見通す力） ○作業活動が作業療法に用いられる理由を理解する（解決する力）
(15)授業の概 要	陶芸、木工、モザイクの種目について課題に沿って作品を完成させ、それらの活動種目が治療として利用できる条件を検討する。
(16)授業の内 容予定	<p>クラスを3グループに分け、陶芸、木工、モザイクの3種目のいずれかを課題1, 2, 3とし、グループごとにローテーションする。</p> <p>第1回：オリエンテーション、陶芸用粘土の準備方法 第2回～第5回：課題1 第6回～第9回：課題2 第10回～第13回：課題3 第14回：陶芸本焼成 第15回：発表</p> <p>第1回：オリエンテーション (加藤, 田中) 第2回～第5回：課題1 (加藤; 陶芸・モザイク, 田中; 木工) 第6回～第9回：課題2 (加藤; 陶芸・モザイク, 田中; 木工) 第10回～第13回：課題3 (加藤; 陶芸・モザイク, 田中; 木工) 第14回：課題の仕上げ、発表準備 (加藤, 田中) 第15回：発表 (加藤, 田中)</p> <p>他に、アンデルセン手芸、電気工作、版画、クロスステッチ、切り絵、カードカービング、ステンシル、砂絵、組みひも、フェルト手芸、紙細工、金</p>

	工、絵画（油彩）、ロープワークについても興味があれば、授業時間以外で作成作業を行うことは可能である。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	あらかじめ配布する資料には、本実習で実施する作業活動の作業工程および使用する道具と使い方の資料が含まれる。 予習では、実施する作業活動についてこれらを熟読すること。 復習では、身体障がい分野、精神障がい分野および発達障がい分野の各疾患への各種作業活動の適応について考察すること。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教 科書	岩瀬義昭著：基礎作業学実習ガイド、協同医書出版社 このほか必要な資料は、1回目の授業の際に配布する
(21)参考文献	図書館で閲覧可能：作業—その治療的応用（共同医書出版社） 小林夏子，福田恵美子・編集：基礎作業学（標準作業療法学 専門分野）、 医学書院，東京，2010。 加藤研究室：木工及び陶芸に関する書籍を多数有している。オフィスアワー に貸し出し可能。 各種アクティビティーに関する書籍は実習室に準備している。授業で実習室 を使用していない時は、いつでも閲覧可能である。
(22)成績評価 方法及び採点基 準	評価は実習への参加態度，課題提出，最終発表及び質疑応答，最終レポート により到達目標の達成度の判定を行い，以下の基準で加減点する。 ・実習への参加態度（20%）：授業回数 $\frac{3}{10}$ を超えて欠席した者は評 価の対象としない。また，グループで行う実習であることから，協調性のある 言動には加点し，協調性に欠ける言動，学習意欲に欠ける態度等については 減点する。 ・課題提出（40%）：課題作品及び課題レポートは期限までに提出すること を原則とし，期限後1日以内の提出は10点の減点，それ以降は未提出として扱 い20点の減点とする。なお，課題作品を上手に作ることによる評価は行わな い。 ・最終発表及び質疑応答（20%）：発表及び質疑応答については，それを行 うことを原則とし，論理性や妥当性について評価し加減点を行う。 ・最終レポート（20%） 上記の合計点が6割以上の者に単位を付与する。
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	配付された資料に記載された作り方にしたがって作品を作る。 作業の進行を実際に体験しながら作業分析を行う。 グループごとに分析結果をまとめ発表する。
(25)留意点・ 予備知識	あらかじめ配布された資料に記載された作り方を熟読しておくこと。 自分の行っている作業活動に没入しないこと。 同グループメンバーとのコミュニケーションを図りながら、他のグループメ ンバーが楽しみながら活動できるように演出をすること。 欠席しないこと。
(26)オフィス アワー	水曜日：午前9時から正午まで 金曜日：午前9時から午後6時まで
	加藤：takuhiko@hirosaki-u.ac.jp 田中：tanakam@hirosaki-u.ac.jp （@を半角に変換して使用してください）

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	
(28)その他	連絡先；作業療法技術学研究室：39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	58
(2)区分番号	58
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神障害作業療法治療学Ⅰ
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○小山内隆生, 加藤拓彦, 田中 真
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○精神障害者の生活能力向上のための訓練についての知識を修得する(見通す力) ○精神科作業療法の理論を修得する(解決する力)
(15)授業の概要	精神障害者の能力障害について学習し、精神障害者の生活能力の向上のための訓練に必要な知識を身につける
(16)授業の内容予定	第1回講義：精神保健領域における作業療法の基本的な理念 (加藤) 第2回講義：精神保健領域における作業療法の基本的な役割 (加藤) 第3回講義：カウンセリング1 (田中) 第4回講義：カウンセリング2 (田中) 第5回講義：カウンセリング3 (田中) 第6回講義：作業療法の基本的な実践論(個人作業療法、集団作業療法) (小山内) 第7回講義：作業療法の構成 (小山内) 第8回講義：集団の因子 (小山内) 第9回講義：対象関係理論 (小山内) 第10回講義：学習理論 (小山内) 第11回講義：精神障害者の生活能力 (小山内) 第12回講義：精神障害における生活の支援の実践 (加藤) 第13回講義：作業療法の実践マネジメント (加藤) 第14回講義：作業療法の実践マネジメント (加藤) 第15回講義：精神障害者の作業能力 (加藤) 第16回講義：試験 (田中)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	平行して行われる精神医学について十分な予習及び復習を行うこと 第1, 2回講義：精神保健領域における作業療法の基本的な理念・役割 →事前に資料を提示するので読んでおくこと 第3, 4, 5回講義：カウンセリング1, 2, 3 →事前に課題を提示する。 第6回講義：作業療法の基本的な実践論(個人作業療法、集団作業療法) →個人作業療法および集団作業療法を調べておくこと 第7回講義：作業療法の構成 →治療構造論などをキーワードとして作業療法を構成する因子について調べておくこと。 第8回講義：集団の因子 →集団・集団力動・凝集性・治療因子などをキーワードとして集団療法について調べておくこと。 第9回講義：対象関係理論 →対象関係理論をキーワードとして作業療法における対象関係について理解を深めておいてください。 第10回講義：学習理論 →学習理論をキーワードとして作業療法と学習について調べておくこと。 第11回講義：精神障害者の生活能力 →臺弘・生活としづらさをキーワードとして生活障害について調べておくこと。 →生活障害に焦点を当てたSSITについて調べておくこと。 →精神障害者の生活様式の特徴について調べておくこと。 第12回講義：精神障害における生活の支援の実践 →家族の機能について調べておくこと。 →入院精神疾患患者に対する作業療法について調べておくこと。 第13回講義：作業療法の実践マネジメント →事前に資料を提示するので読んでおくこと。 第14回講義：作業療法の実践マネジメント →事前に資料を提示するので読んでおくこと。 第15回講義：精神障害者の作業能力 →精神障害者の就労をキーワードとして就労の実情や問題や課題について調べておくこと
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	日常生活活動の作業療法、中央法規 事前に資料を配付する。
(21)参考文献	精神疾患の理解と精神科作業療法 NEW精神医学(精神医学教科書として購入済み) 精神障害と作業療法(付風園書館医学部分館)
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は出席態度を2割、レポートを2割、期末試験を6割として評価を行う ・授業回数3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない ・授業中の学習意欲に欠ける態度等については減点する ・レポートは期限までに提出することを原則とし、期限後1日以内の提出は10点の減点、それ以降は未提出として扱う ・期末試験の6割以上を得点し、かつ欠状状況及び出席態度、レポート、期末試験の合計点が6割以上の者に単位を付与する
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	スライドや資料を用いた講義を行う
(25)留意点・予備知識	予習を十分に行うこと
(26)オフィスアワー	作業療法技術学研究室 水曜日：午前9時から正午まで 金曜日：午前9時から午後6時まで
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小山内：osanai@hirosaki-u.ac.jp 加藤：takuhiko@hirosaki-u.ac.jp 田中：tanakam@hirosaki-u.ac.jp 小山内：http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?

	page=DBRecord&did=1988&gid=3120&vid=718&rid=260&Head=237&hid=54086&sid=n&rev=1&ssid= 加藤 : http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db_exe?page=DBRecord&did=1988&gid=3120&vid=718&rid=255&Head=237&hid=54086&sid=n&rev=1&ssid= 田中 : http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db_exe?page=DBRecord&did=1988&gid=3120&vid=718&rid=494&Head=454&hid=55662&sid=n&rev=1&ssid=
(28)その他	連絡先: 作業療法技術学研究室 : 39-5937

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	59
(2)区分番号	59
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	作業療法評価学実習Ⅱ
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5～7 時限
(10)担当教員(所属)	○小山内隆生, 小枝周平
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○精神科領域の作業療法と発達障害領域の作業療法で使用する評価を理解し, これらを適切に選択する知識を修得する(見通す力) ○対象患者に適切な評価を実施できる知識・技術を修得する(解決する力)
(15)授業の概要	精神科作業療法で用いられる評価と発達障害領域で用いられる評価について実習を行う
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(小山内, 小枝) 【講義】精神障害・発達期領域の作業療法における評価 2. 認知機能の評価(小山内) WAIS 3. 認知機能の評価(小山内) BACS 4. 認知機能の評価(小山内) HDS-R 5. 認知機能の評価(小山内) MMSE 6. 認知機能の評価(小山内) TMT 7. 生活技能の評価(小山内) REHAB 8. 生活技能の評価(小山内) LASMI 9. 生活の質の評価(小山内) WHOQOL-26 10. 生活の質の評価(小山内) SQOL 11. 全般的発達検査(小枝) 遠城寺式乳幼児発達検査法 DENVER II Vineland II S-M社会生活能力検査 12. 運動検査①(小枝) 脳性麻痺児の反射検査 13. 運動検査②(小枝) JMAP、M-ABC2 14. 知能検査(小枝)

	<p>WISC-IV 田中・ビネー知能検査 K-ABC グッド イナフ人物画知能検査 15. テスト (小枝) 発達期作業療法における実技テスト とペーパーテスト 1) 反射検査の実技テスト 2) 全般的発達検査に関するペーパーテスト</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>予習: 講義の資料, 教科書の該当ページを読んでおくこと 復習: 実習内容を振り返り理解してください (予習・復習は, 最低でも各回1時間程度行う必要があります)</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	教育学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	能登真一/山口昇/玉垣努/新宮尚人/加藤寿宏/松房利憲編: 作業療法評価学. 医学書院, 2017, 東京.
(21)参考文献	<p>小林夏子編: 精神機能作業療法学. 医学書院, 2014, 東京. 福田恵美子編: 発達過程作業療法学 第2版. 医学書院, 2014, 東京. 福田恵美子編: 人間発達学 改定第4版 中外医学社, 2017, 東京.</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価 (実習への参加度 単なる出席回数ではない 評価全体の40%) 期末評価 (毎回の実習終了後にレポートを課す 実技テスト, ペーパーテストを行う 評価全体の60%) 上記を合算して成績評価を行います</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	5人ずつのグループに分け, グループごとに実技を行います 検者と被検者は適宜交代し, 全員が全検査を行うようにします
(25)留意点・予備知識	評価学で学んだ知識を再確認しておくこと
(26)オフィスアワー	<p>小山内: 火曜日 9:00~11:30、水曜日 9:00~11:30、金曜日 9:00~11:30 小枝: 火・水曜日 9:00~17:00 ※日程・時間を事前に調整してください (メールでよいです)</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>小山内隆生: osanai@hirosaki-u.ac.jp 小枝周平 : ot_koeda@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	<p>授業回数の3分の1を超えて欠席した者は評価の対象としない グループで行う実習であため, 協調性のある言動には加点し, 協調性に欠ける言動, 学習意欲に欠ける態度等については減点する レポートは期限までに提出することを原則とする 期限を過ぎた場合は未提出として扱います</p>

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	60
(2)区分番号	60
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	義肢装具作業療法学実習 (Practice of Assistive Technology on Occupational Therapy)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～3時限
(10)担当教員(所属)	平川裕一
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2～3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○身体障害者に対して義肢、装具、福祉用具を適切に提供できる(見通す力、解決していく力)
(15)授業の概要	義肢、装具の製作・調整技能を修得する。 福祉用具、社会環境の現状を理解する。
(16)授業の内容予定	1：オリエンテーション、義肢講義 2～6：市内の環境調査(公共施設)、市内の環境調査(屋外)、義手操作適合実習、道具の持ち方の多様性についての実習、車椅子適合実習 7：装具講義、カックアップスプリント製作 8～15：カックアップスプリント製作、短対立スプリント製作、ナイトスプリント製作、指ナックルベンダー製作
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として、今までの講義の資料、教科書の該当ページを読んでください。 授業内では、不明な点や疑問点を解決してください。 復習として、講義内容を想起しながら、講義の資料、教科書の該当ページをよく読んで理解してください。 ※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	作業療法学全書 第9巻 義肢装具学(協同医書出版社)
(21)参考文献	

	<p>手のスプリントのすべて（三輪書店） その他、各自必要と思われる資料を収集してください。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（実習への参加度，討論への参加度，レポート，口頭試問など）：100%</p>
(23)授業形式	<p>実習</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>課題ごとのグループで実習を行います。 疑問はそのままにせず，質問や自己学習で解決してください。 実習はグループ全員で行ってください。 参加していないことが判明した場合には，評価点を無効にします。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>実習は，予定表にしたがって行います。実習の内容について，あらかじめ予習してきてください。 実習時のすべてのこと（服装、言動など）は，臨床場면을想定して行ってください。 実習は，身体の運動を伴うため，動きやすい服装（ジャージ，セラピストスーツなど）でのぞんでください。運動制限を生じる服装は避けてください。 実習内容については，復習してください。</p>
(26)オフィスアワー	<p>月曜日：9:00～11:30 火曜日：13:00～17:30 木曜日：9:00～10:00 D-4-1平川研究室</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>yhira@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	<p>作業療法士としての実務経験を活かし，事例を提示しながら授業を行います。</p>

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	61
(2)区分番号	61
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	身体障害作業療法学実習 (Practice of Occupational Therapy Theory and Process for Physical Disabilities)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5～7時限
(10)担当教員(所属)	○平川裕一, 上谷英史
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○身体障害領域の作業療法を展開できる(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	身体障害に対する作業療法を実施する上で必要な検査・測定技術を応用する方法について患者を通して習得する。 評価結果から患者の問題点となる諸処の因子を把握し, 基本的作業療法治療方法・ADL指導技術の応用方法を習得する。 症例報告の意義・方法を理解する。
(16)授業の内容予定	1: オリエンテーション, 学内実習(平川, 上谷) 2, 3, 4: 病院実習(平川, 上谷) 5: 学内実習(平川, 上谷) 6, 7: セミナー発表(平川, 上谷) 8: 学内実習(平川, 上谷) 9, 10, 11: 病院実習(平川, 上谷) 12: 学内実習(平川, 上谷) 13, 14: セミナー発表(平川, 上谷) 15: 学内実習(平川, 上谷)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として, 今までの講義の資料, 教科書の該当ページを読んでください。 授業内では, 不明な点や疑問点を解決してください。 復習として, 講義内容を想起しながら, 講義の資料, 教科書の該当ページをよく読んで理解してください。 ※1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(18)学問分野1(主学問分野)	人間医工学関連(医学)
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	<p>作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学（協同医書出版社） 作業療法学全書 第4巻 身体障害（協同医書出版社） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） 新・徒手筋力検査法（協同医書出版） 見てわかる医療スタッフのための痰の吸引（学研） 身体障害作業療法学講義時に配布した資料</p>
(21)参考文献	<p>作業療法評価学（医学書院） 身体機能作業療法学（医学書院） その他、各自必要と思われる資料を収集してください。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価（実習への参加度，討論への参加度，レポート，口頭試問など）：100%</p>
(23)授業形式	<p>実習</p>
(24)授業形態・授業方法	<p>課題ごとのグループで実習を行います。 病院に出向き，3～4人のグループで，対象者の評価を行います。また，病院実習終了後全体セミナーとして実習内容についての発表・討論を行います。 疑問はそのままにせず，質問や自己学習で解決してください。 実習はグループ全員で行ってください。 参加していないことが判明した場合には，評価点を無効にします。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>実習は，予定表にしたがって行います。実習の内容について，あらかじめ予習してきてください。 実習時のすべてのこと（服装、言動など）は，臨床場面を想定して行ってください。 実習は，身体の運動を伴うため，動きやすい服装（ジャージ，セラピストスーツなど）でのぞんでください。運動制限を生じる服装は避けてください。 実習内容については，復習してください。 学外施設での実習であり，よほどの事情がない限り遅刻，欠席は認められません。</p>
(26)オフィスアワー	<p>月曜日：9:00～11:30 火曜日：13:00～17:30 木曜日：9:00～10:00 D-4-1平川研究室</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>yhira@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	<p>作業療法士としての実務経験を活かし，事例を提示しながら授業を行います。</p>

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	62
(2)区分番号	62
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健学概論演習 (Seminar in Health Sciences)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～4 時限
(10)担当教員 (所属)	○若山佐一, 北宮千秋, 工藤幸清, 武尾照子, 田中 真
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	<p>○保健学の総仕上げとして、これまで学習してきた専門領域の知識や技術を総動員し、保健関連職種の仕事や連携について具体的に理解する（見通す力、解決する力）</p> <p>○健康、保健という基本的概念を理解し、「人」をみつめた将来の保健医療専門職となる基本的態度を培う（見通す力）</p> <p>○保健学科の5専攻の各専門分野における教育の理念や専門職としての役割、責任、他職種との連携等について学ぶことにより、その共通性と独自性について理解する（解決する力、学び続ける力）</p> <p>○インタープロフェッショナルワーク（多職種連携）の理解（見通す力）</p>
(15)授業の概要	<p>インタープロフェッショナルワーク（多職種連携）を伴う課題について、多職種構成によるグループで課題の内容、問題、目標、解決方法等について具体的な事例検討により理解することを目標としています。</p> <p>11月中旬にグループワークも含め30時間実施する集中授業形式です。</p> <p>ただし、ボランティア等で多職種連携による住民健診、健康調査や指導等に参画する機会があった場合には、授業時間に換算する場合がありますので、担当教員に相談してください。</p>
(16)授業の内容 予定	<p>演習課題は緊急被ばく医療（福島原発の事故を例に避難所生活や仮設住宅～復興住宅での医療やケア）、青森県内の地域在宅医療やケア（がんのターミナルケアや難病や脳卒中後のリハビリ等）等を提示し選択してもらう予定。</p> <p>1回目11/8、午前2コマ4時間、導入と連携等の講義、授業導入（若山）</p> <p>インタープロフェッショナルワークとは（若山）</p> <p>グループダイナミックスについて（田中）</p> <p>演習課題の提示とグループワーク</p> <p>課題を決定し、習内容の大枠を決定し、役割分担等を決める。</p>

	<p>11/9-14グループワーク8時間、役割分担とそれによる情報収集、役割分担等。</p> <p>2回目11/15: 1コマは進捗状況を発表し、今後の活動方針や内容を教員と検討する。残りの時間はグループワークに当てる。 最後の週の発表に備え課題の調査や内容の整理、発表分担等を決める。</p> <p>11/16-21グループワークで10時間、情報収集とその統合、整理、発表分担等を行う。</p> <p>3回目11/22: 2コマ4時間、1コマ発表準備、1コマ演習課題の発表とまとめ</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	各々の専門の総復習として、各々の専門領域の基本概念・役割等を復習し臨んでください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	人間医工学関連（医学）
(19)実務経験のある教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。
(21)参考文献	ラーニングシリーズIP(インタープロフェッショナル)：保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践，協同医書，2018(分館) 適宜授業や相談時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>1. 演習課題に関する発表や関連資料の作成，提出（30%）</p> <p>2. グループにおける活動の学生同士の相互評価（30%）教員による評価（40%）</p> <p>これらを統合して最終評価を行います。 授業時以外の多職種連携活動等への参加による授業時間の換算の場合には、レポート作成とその発表等，相談のうえ評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	主に演習ですが，講義形式もあります。演習としての実習体験なども相談により可能です。 グループワーク(グループダイナミックス，討論の体験)が主体となります。 グループワークの成果を発表してもらい，学生と教員による評価を行います。
(25)留意点・予備知識	<p>5専攻の学生が受講可能な時期ということでの11月開始，終了としています。</p> <p>選択科目であり，受講する学生の専攻別構成人数等により実施内容に変更もありえます。</p> <p>金曜日午前2コマが授業枠であるが，平日や土曜日，日曜日など，各グループワークを各々行いやすい時間で組み，内容等は必要に応じて適宜教員に相談する。</p> <p>教員は導入講義と発表時には関与，グループワーク時には相談等必要に応じて可能な範囲で関与する予定です。</p> <p>多職種連携を演習として実践するため，5専攻の学生の履修によるグループ構成が必要となりますので，履修状況により，開講できない，開講しないなど</p>

	の場合もあります。
(26)オフィスアワー	(若山)月, 水, 木の17: 40-18: 30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	科目責任者, 若山佐一: swaka@ 北宮千秋: chiaki, 工藤幸清: kohsei, 武尾照子: ttakeo, 田中真: mtanaka
(28)その他	卒研, 国試準備などの合間の実施ですが, 頭を切り替えてリフレッシュでき, かつ今後の臨床等で経験するであろう多職種連携の理解につながることを期待しています。

医学部保健学科 作業療法学専攻

(1)整理番号	63
(2)区分番号	63
(3)科目種別	医学部保健学科作業療法学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	卒業研究（作業）（Graduate Thesis）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	4
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	不定期開講
(10)担当教員 （所属）	○作業療法学専攻教員
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル4
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達 目標	○問題点を整理する能力および問題点を解決する手段を修得する（見通す力、解決していく力） ○将来、遭遇する種々の問題に対して解決する手段を修得する（学び続ける力、解決していく力）
(15)授業の概 要	担当教員の指導のもとに、研究テーマを決め、研究計画の作成、実験・調査の実施、プレゼンテーション、卒業研究論文の執筆を行うことで、問題点を客観的に、正確に分析、把握する洞察力、それに関するデータ集積の方法、論理的に配列整理する能力を養い、将来、遭遇する種々の問題に対して解決する手段を体得する
(16)授業の内 容予定	平成31年12月7日（土） 卒業研究発表会 平成31年12月20日（金） 卒業論文提出 【研究の流れ】 1. 担当教員の指導に沿って卒業研究を実施すること。 2. おおむね、研究は以下のように展開される。 1) 研究内容の決定 ・ 研究目的の明確化 ・ 仮説の設定 ・ 文献的検討 2) データの収集 ・ 収集方法の検討 ・ データ収集 ・ データの整理 3) データの解釈 ・ 結果の提示 ・ 結果の考察 ・ 結論の提示 4) 成果の発表 ・ 学会発表 担当者：作業療法学専攻全教員（和田一丸、小山内隆生、山田順子、加藤拓彦、平川裕一、上谷英史、小枝周平、田中真、澄川幸志、佐藤ちひろ）

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	各指導教員より 指定あり
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員によ る授業科目につ いて	-
(20)教材・教 科書	各指導教員より 指定あり
(21)参考文献	各指導教員より 指定あり
(22)成績評価 方法及び採点基 準	卒業研究発表会での発表および卒業論文の執筆により 各指導教員が採点（発 表：50%、論文執筆：50%）
(23)授業形式	演習
(24)授業形 態・授業方法	各指導教員より 指定あり
(25)留意点・ 予備知識	各指導教員と連絡を密にとること
(26)オフィス アワー	各指導教員に問い合わせること
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	各指導教員に問い合わせること
(28)その他	特になし